

## 膨張する医療費の要因は薬剤費にあり —2000年度～2016年度における概算医療費と薬剤費の推移—

2017年11月30日

全国保険医団体連合会

2016年度の概算医療費は41.3兆円で、2002年度以来14年ぶりに対前年度比▲0.2兆円の減少となった。2000年度からの16年間で比較すると、総額で年間11.9兆円増加したことになる。膨張する医療費の要因はどこにあるのか。厚生労働省が公表している概算医療費データベース（メディアス）の制度別医療機関種別医療費と社会医療診療行為別調査（e-stat）をもとに、2000年度から2015年度までの概算医療費の推移を薬剤費の動向を中心に分析した。

2000年度からの16年間で11.9兆円増加した概算医療費の内訳を施設別でみると、病院が5.5兆円、調剤薬局が4.7兆円増加し、伸びの大半を占めるが、調剤薬局は初めて対前年度比▲0.4兆円の減少となった。診療所の伸びは1.2兆円であり、歯科の伸びは0.3兆円にすぎない。

入院外医療費（病院、診療所の外来＋調剤薬局）は7.4兆円増加している。中でも調剤薬局は2.8兆円から7.5兆円へと倍増している。調剤薬局の増加は主に薬剤費の増加によるものである。

入院外医療費の伸びの52%は薬剤費の3.8兆円であり、調剤薬局技術料等の0.9兆円と合わせると3分の2が薬剤関係によって占められる。

入院外医療費をレセプト1件当たりでみると、対2000年度比で診療所（▲14.6%）、歯科（▲18.5%）と大幅に減少している。一方、天井知らずの伸びを示していたがレセプト1件当たりの薬剤料は、対前年比▲5.3%の減少となり、2000年度比+52.8%の伸びとなった。

2016年度の入院の薬剤費は0.5兆円で包括医療の拡大により出来高部分が見かけ上減少している。入院外の薬剤費の内訳は外来3.0兆円、調剤薬局5.6兆円である。薬剤費全体で9.1兆円となり、対前年度比▲0.4兆円減少した。

薬事工業動態調査によれば、国内生産が横ばいなのに対して輸入の薬剤費の増加が目立つ。これら薬剤費高騰の背景には、日本の高薬価構造がある。

2016年度の概算医療費が対前年度比マイナスに転じたのは、高薬価の抗ウイルス薬等の薬価に引き下げによる薬剤費減少の影響が大きい。経年的にみると過去最大の伸びとなった前々年度の1.5兆円増を相殺した結果にとどまっている。

本会は日本の高薬価構造が是正され、その財源が技術料引き上げや患者負担軽減に振り向けられ、国民医療の改善が図られることを強く求めるものである。

以上

## 概算医療費の推移(2000～2016年度)



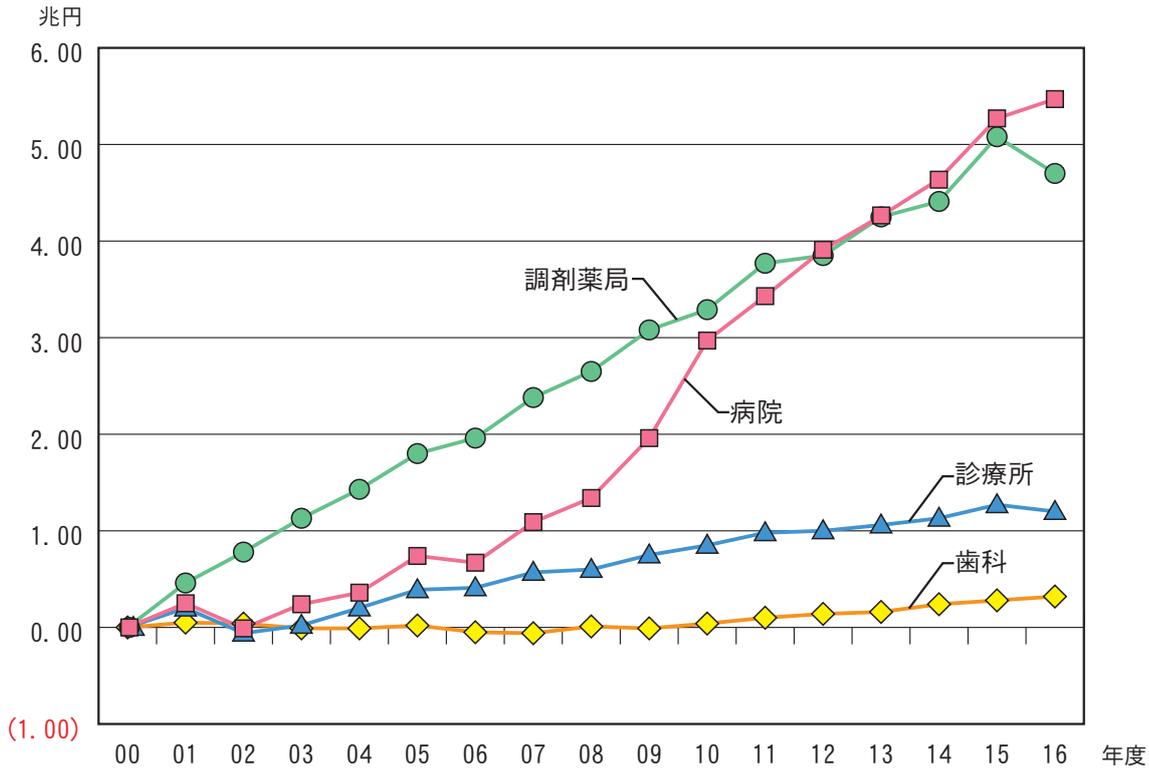
単位：兆円

年度	病 院			診療所			歯科	調剤薬局	訪問看護	概算医療費
	入院	外来	合計	入院	外来	合計				
2000	11.71	4.98	16.69	0.44	6.92	7.36	2.56	2.79	0.03	29.4
2001	11.94	5.01	16.94	0.43	7.13	7.56	2.60	3.25	0.03	30.4
2002	11.92	4.77	16.69	0.40	6.89	7.29	2.59	3.57	0.04	30.2
2003	12.17	4.77	16.94	0.40	6.98	7.38	2.54	3.92	0.04	30.8
2004	12.33	4.72	17.05	0.39	7.17	7.56	2.55	4.23	0.04	31.4
2005	12.61	4.82	17.43	0.39	7.36	7.75	2.58	4.59	0.05	32.4
2006	12.62	4.75	17.37	0.38	7.40	7.77	2.51	4.75	0.05	32.4
2007	12.98	4.80	17.78	0.37	7.56	7.93	2.50	5.17	0.06	33.4
2008	13.23	4.80	18.03	0.38	7.58	7.95	2.57	5.44	0.06	34.1
2009	13.66	4.99	18.66	0.37	7.74	8.11	2.55	5.87	0.07	35.3
2010	14.52	5.14	19.66	0.38	7.82	8.20	2.59	6.08	0.08	36.6
2011	14.84	5.29	20.12	0.37	7.96	8.34	2.66	6.56	0.09	37.8
2012	15.21	5.39	20.60	0.37	7.99	8.36	2.69	6.64	0.10	38.4
2013	15.42	5.54	20.96	0.36	8.07	8.42	2.72	7.04	0.12	39.3
2014	15.69	5.64	21.33	0.35	8.13	8.49	2.80	7.20	0.14	40.0
2015	16.01	5.95	21.96	0.34	8.29	8.63	2.83	7.87	0.16	41.5
2016	16.21	5.96	22.17	0.33	8.22	8.56	2.87	7.50	0.19	41.3
伸び額	4.50	0.97	5.47	-0.10	1.30	1.20	0.32	4.70	0.16	11.85
伸び率	38.4%	19.5%	32.8%	-23.2%	18.8%	16.3%	12.5%	168.5%	369.5%	40.3%

注：四捨五入の関係で合計、差額の数字が小数点以下で合わない場合がある。以下同。

2016年度の概算医療費は41.3兆円で、2002年度以来14年ぶりに対前年度比▲0.2兆円の減少となった。ただし、前年度は前々年度比1.5兆円増と過去最大の伸びを記録しており、2000年度からの16年間で比較すると、総額で年間11.9兆円増加したことになる。

## 医療費の伸び(対2000年度)の推移



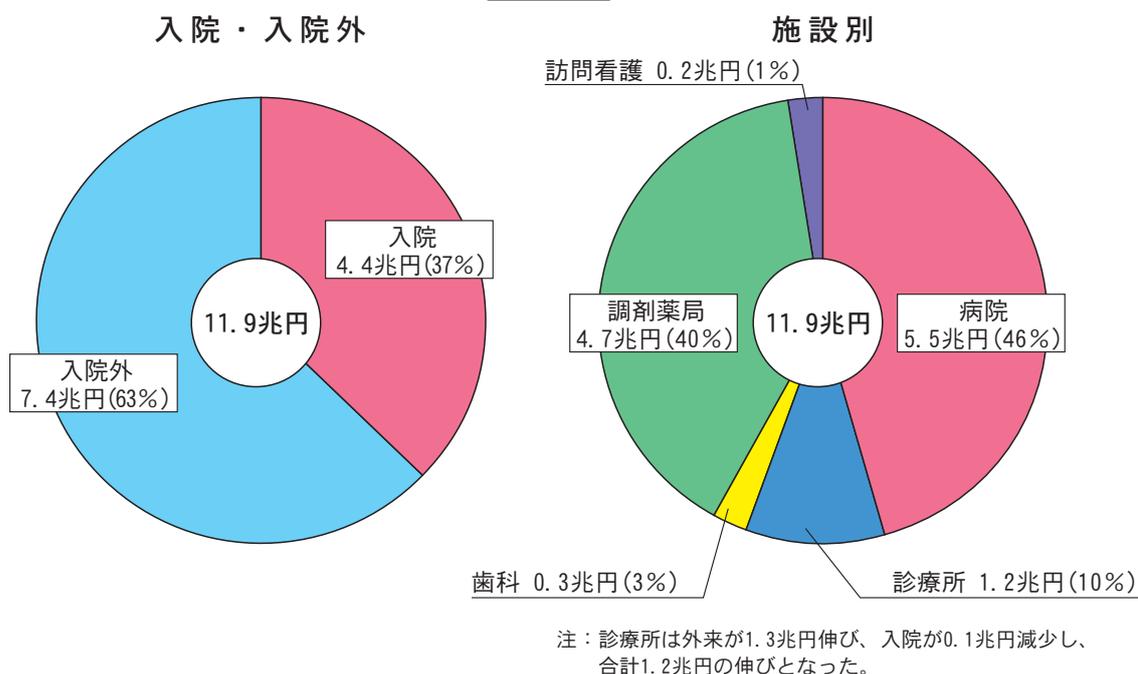
単位：兆円

年度	病院	診療所	歯科	調剤薬局	訪問看護	概算医療費
2000	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2001	0.25	0.20	0.05	0.46	0.00	0.96
2002	-0.01	-0.06	0.04	0.78	0.01	0.75
2003	0.24	0.02	-0.01	1.13	0.01	1.38
2004	0.36	0.20	-0.01	1.43	0.01	1.99
2005	0.74	0.39	0.02	1.80	0.02	2.97
2006	0.67	0.41	-0.05	1.96	0.02	3.01
2007	1.09	0.57	-0.06	2.38	0.03	4.01
2008	1.34	0.60	0.01	2.65	0.04	4.63
2009	1.96	0.75	-0.01	3.08	0.04	5.82
2010	2.97	0.85	0.04	3.29	0.05	7.18
2011	3.43	0.98	0.10	3.77	0.06	8.33
2012	3.91	1.00	0.14	3.85	0.07	8.97
2013	4.26	1.06	0.16	4.25	0.09	9.82
2014	4.64	1.13	0.24	4.41	0.11	10.52
2015	5.27	1.27	0.28	5.08	0.13	12.03
2016	5.47	1.20	0.32	4.70	0.16	11.85

医療費の伸び(対2000年度)を施設別にみると、調剤薬局は直線的に伸び続けていたが、2016年度は対前年度比▲0.4兆円と初めての減少となった。病院は2009年度より伸びが急峻となり、高い伸び率を維持している。診療所は緩やかな伸びを示していたが、2016年度は2002年度以来14年ぶりに減少となった。2010年度から微増を続けている。

# 概算医療費の伸び(2000～2016年度)11.9兆円の内訳

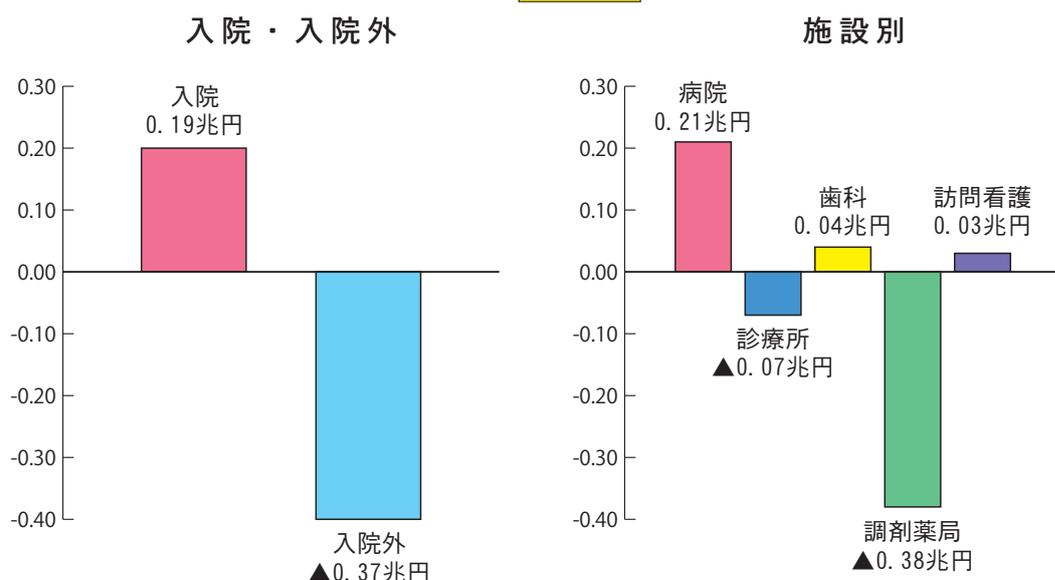
16年間



2000年度から16年間の医療費の伸び11.9兆円のうち、入院は4.4兆円で、残りの7.4兆円が入院外である。施設別にみると、病院が5.5兆円、調剤薬局が4.7兆円であり、両方で伸びの大半を占める。診療所は1.2兆円であり、歯科は0.3兆円、訪問看護の伸びが0.2兆円である。

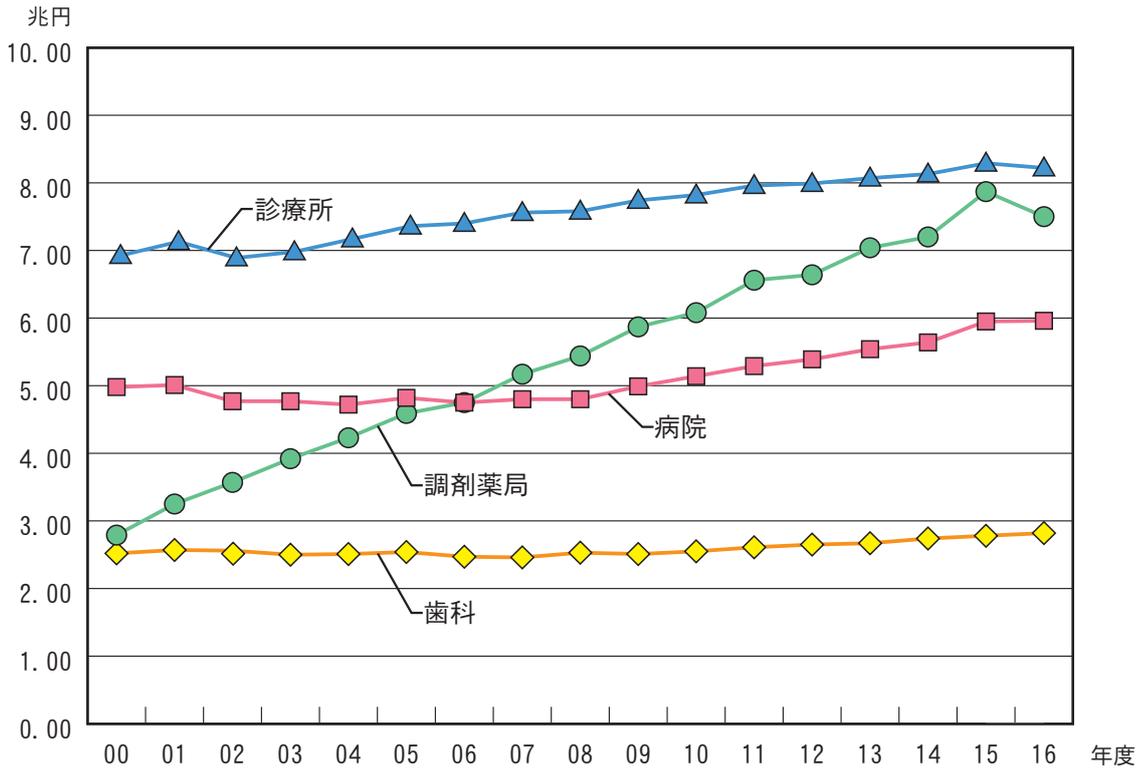
# 概算医療費の対前年度比較(2015～2016年度)

1年間



2016年度の医療費を2015年度と比較すると、入院は0.2兆円増加、入院外が0.4兆円の減少であった。施設別にみると、病院が0.21兆円、歯科が0.04兆円、訪問看護が0.03兆円の増加、診療所が0.07兆円、調剤薬局が0.38兆円の減少であった。

## 入院外(外来・調剤薬局)医療費の推移



単位：兆円

年度	病院	診療所	歯科	調剤薬局	合計
2000	4.98	6.92	2.52	2.79	17.2
2001	5.01	7.13	2.57	3.25	18.0
2002	4.77	6.89	2.56	3.57	17.8
2003	4.77	6.98	2.50	3.92	18.2
2004	4.72	7.17	2.51	4.23	18.7
2005	4.82	7.36	2.54	4.59	19.4
2006	4.75	7.40	2.47	4.75	19.4
2007	4.80	7.56	2.46	5.17	20.0
2008	4.80	7.58	2.53	5.44	20.4
2009	4.99	7.74	2.51	5.87	21.2
2010	5.14	7.82	2.55	6.08	21.7
2011	5.29	7.96	2.61	6.56	22.5
2012	5.39	7.99	2.65	6.64	22.8
2013	5.54	8.07	2.67	7.04	23.4
2014	5.64	8.13	2.74	7.20	23.9
2015	5.95	8.29	2.78	7.87	24.9
2016	5.96	8.22	2.82	7.50	24.5
伸び額	0.96	1.36	0.26	5.08	7.64
伸び率	19.3%	19.7%	10.4%	182.1%	44.3%

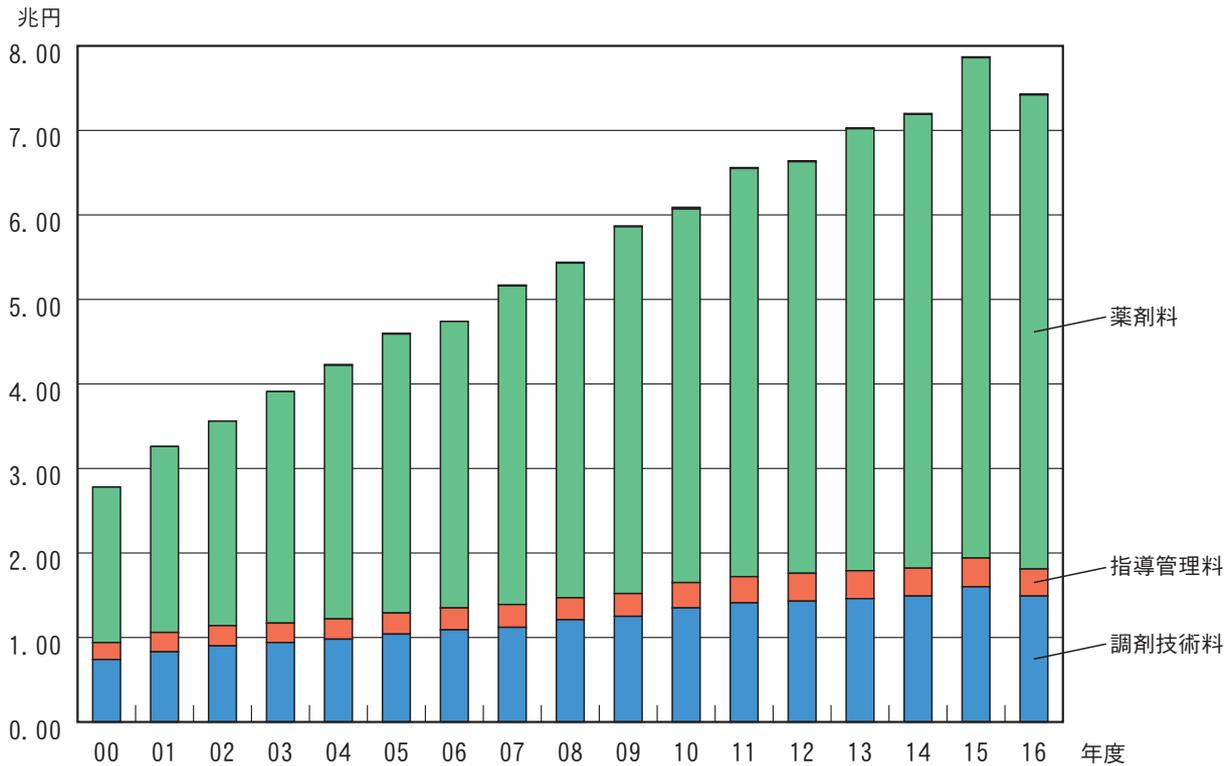
参考：1999年度

歯科 2.5兆円

調剤薬局 2.3兆円

診療所外来は徐々に増加したが、2016年度は僅かに減少した。病院外来は2008年度より増加に転じている。歯科はほぼ横ばいから微増である。調剤薬局は2007年度に病院外来を抜き、診療所外来に迫りつつあったが、2016年度は大きく減少した。

## 調剤薬局医療費の推移



単位：兆円

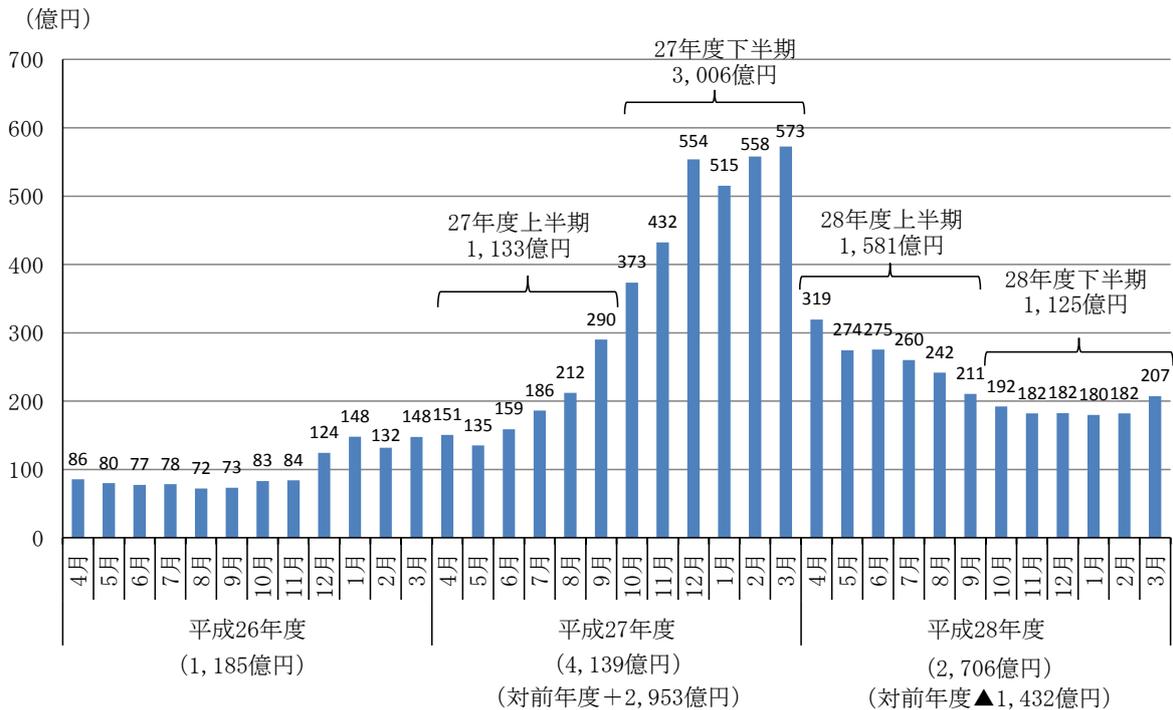
年度	調剤技術料	指導管理料	薬剤料	特定保険医療材料	合計	院外処方率
2000	0.74	0.20	1.84	0.00	2.79	38.1%
2001	0.83	0.23	2.20	0.00	3.25	41.5%
2002	0.90	0.24	2.42	0.00	3.57	46.0%
2003	0.94	0.23	2.74	0.00	3.92	48.9%
2004	0.98	0.24	3.00	0.01	4.23	51.7%
2005	1.04	0.25	3.30	0.01	4.59	52.8%
2006	1.09	0.26	3.39	0.00	4.75	54.6%
2007	1.12	0.27	3.77	0.01	5.17	59.8%
2008	1.21	0.26	3.96	0.01	5.44	59.3%
2009	1.25	0.27	4.34	0.01	5.87	62.0%
2010	1.35	0.30	4.42	0.02	6.08	62.8%
2011	1.41	0.31	4.83	0.01	6.56	65.3%
2012	1.43	0.33	4.87	0.01	6.64	65.8%
2013	1.46	0.33	5.23	0.01	7.04	70.2%
2014	1.49	0.33	5.37	0.01	7.20	71.8%
2015	1.60	0.34	5.92	0.01	7.87	72.7%
2016	1.49	0.32	5.61	0.01	7.50	73.9%
伸び額	0.74	0.12	3.77	0.01	4.70	
伸び率	100%	58%	205%	561%	168%	

\* 2000年度は推計値

調剤薬局の医療費の増加は主に薬剤料の増加による。調剤薬局の薬剤料だけで16年間で3.8兆円増加している。薬剤料のみならず調剤技術料+指導管理料も0.86兆円の増加を示している。しかし、2016年度は対前年比で薬剤料が▲0.31兆円減少、調剤技術料+指導管理料も▲0.13兆円減少した。

〔平成 28 年度の調剤医療費「抗ウイルス剤」の薬剤料は対前年度▲1,432 億円。  
 これに院内処方をお案すると医療費の伸び率への影響は▲0.5%程度と見込まれる。〕

【参考 2】 調剤医療費のうち薬効分類「抗ウイルス剤」の薬剤料の推移



**日本経済新聞** 2017年11月7日(火)

ハーボニーは首位こそ維持したものの、需要が一巡したことから売上高は減少傾向にある。16年4～6月は約700億円を売り上げたが、17年1～3月は約200億円に落ち込んだ。この傾向は続いており、17年度は大きく順位を下げる可能性が高い。

2位に入ったオブジーボは15年度の約6倍の1190億円を売り上げた。患者数の多い肺がんなどに適応が拡大したこともあって順調に販売を伸ばした。16年10～12月だけで見ると約360億円に達しており、ハーボニーを抜いて首位に躍り出ている。



⊕画像の拡大

ただ、2月に薬価が半額に引き下げられた影響から、17年1～3月は約260億円と急ブレーキがかかっている。オブジーボは薬価ベースで年1500億円超を売り上げるとの推定で薬価が引き下げられたが、引き下げが無くても1500億円に届かなかった可能性が濃厚だ。

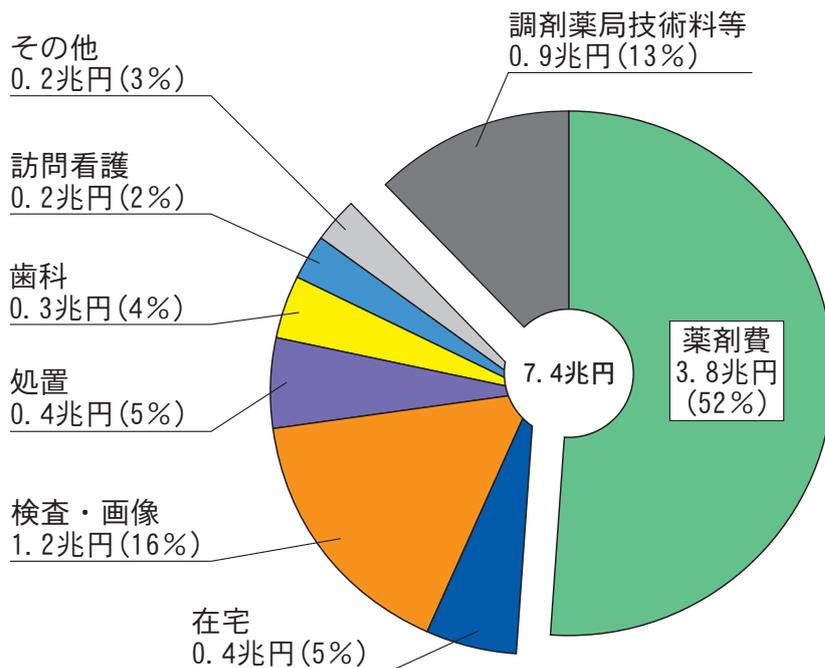
2016年度の製品別売上高

順位	商品名 (主な対象疾患)	売上高 (億円)
1(1)	ハーボニー (C型肝炎)	1,647
2(-)	オブジーボ (がん)	1,190
3(3)	アバステン (がん)	1,110
4(5)	ネキシウム (消化管潰瘍)	990
5(6)	リリカ (疼痛)	862

(注)いずれも医療用医薬品の薬価ベースの数字。クインタイルスIMS調べ。カッコ内は15年度順位

⊕画像の拡大

## 入院外医療費の伸び(2000～2016年度) 7.4兆円の内訳



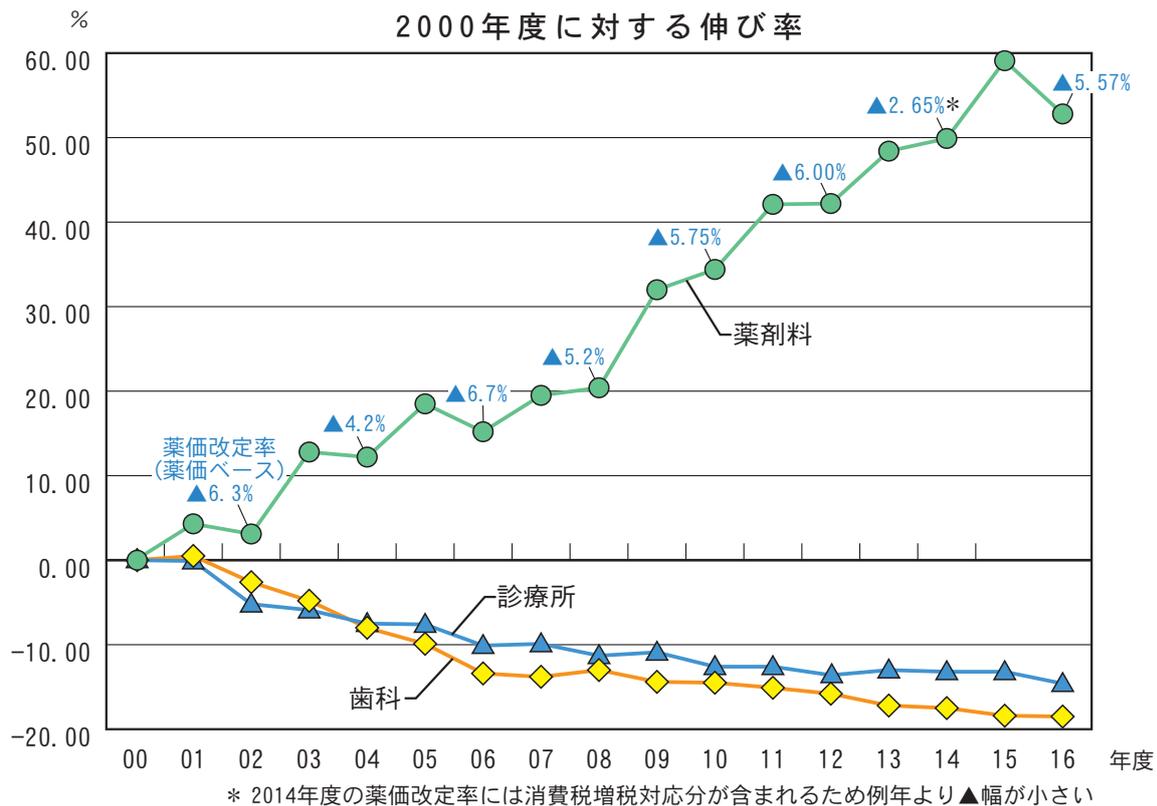
	2000年度	2016年度	伸び額
薬剤費			
外来	2.93	2.99	0.06
調剤薬局	1.84	5.61	3.77
合計	4.77	8.60	3.83
在宅医療	0.54	0.95	0.40
検査・画像診断	2.45	3.66	1.20
処置*	1.01	1.40	0.39
その他外来	4.98	5.19	0.22
歯科	2.52	2.82	0.30
調剤薬局技術料等	0.95	1.81	0.86
訪問看護	0.03	0.19	0.16
<b>入院外医療費合計</b>	<b>17.25</b>	<b>24.69</b>	<b>7.44</b>

\* 処置料の大半は透析の医療費と考えられる。

	2000年度	2016年度	差額	伸び率
施設数				
: 件				
病院	9,279	8,452	-828	-8.9%
診療所	78,778	84,948	6,170	7.8%
歯科	64,040	69,296	5,256	8.2%
調剤薬局	38,393	56,751	18,358	47.8%
外来レセプト件数				
: 億件				
病院	3.23	2.63	-0.59	-18.4%
診療所	5.57	7.75	2.18	39.1%
歯科	1.64	2.25	0.61	37.2%
調剤薬局	3.25	6.58	3.33	102.4%
外来医療費				
: 兆円				
病院	4.98	5.96	0.97	19.5%
診療所	6.92	8.22	1.30	18.8%
歯科	2.52	2.82	0.30	11.9%
調剤薬局	2.79	7.50	4.70	168.5%
施設当たり外来医療費				
: 万円/月				
病院	4,476	5,873	1,397	31.2%
診療所	732	807	74	10.1%
歯科	328	339	11	3.4%
調剤薬局	606	1,101	495	81.6%
レセプト1件当たり医療費				
: 円				
病院	15,447	22,622	7,175	46.5%
診療所	12,425	10,609	-1,816	-14.6%
歯科	15,334	12,502	-2,832	-18.5%
調剤薬局	8,593	11,396	2,803	32.6%

入院外医療費の伸びの52%は薬剤費の3.8兆円であり、調剤薬局技術料等の0.9兆円と合わせると伸び全体の3分の2が薬剤関係によって占められる。薬剤関係以外では検査・画像診断が1.2兆円と大きく、処置の0.4兆円と続く。残りは在宅0.4兆円、歯科0.3兆円、訪問看護0.2兆円である。

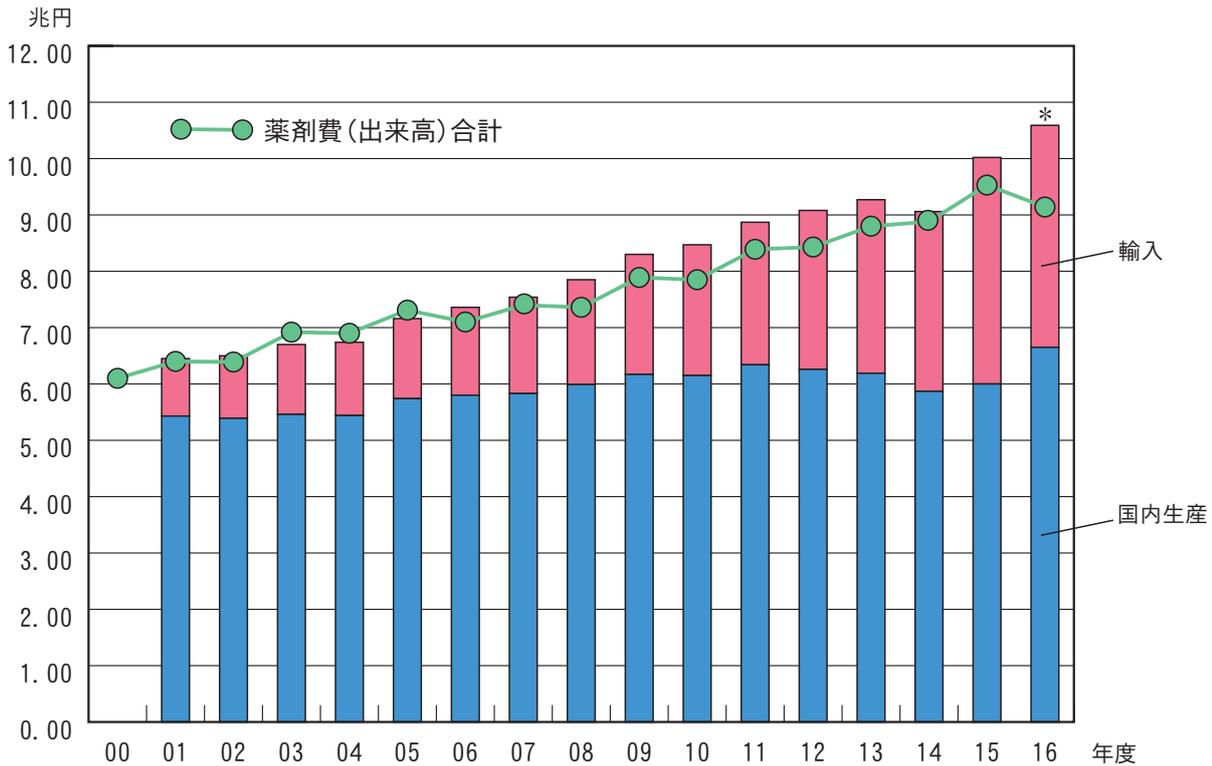
# 入院外レセプト 1 件当たり薬剤費・医療費の伸び率の推移



年度	レセプト 件数：億件	薬剤料：兆円			レセプト1件当たり金額：円					
		病院+診療所	調剤薬局	合計	薬剤料	伸び率	診療所医療費	伸び率	歯科医療費	伸び率
2000	8.80	2.93	1.84	4.77	5,421	0.0%	12,425	0.0%	15,334	0.0%
2001	9.02	2.91	2.20	5.11	5,657	4.3%	12,409	-0.1%	15,403	0.5%
2002	9.07	2.65	2.42	5.07	5,587	3.1%	11,781	-5.2%	14,943	-2.6%
2003	9.12	2.83	2.74	5.58	6,115	12.8%	11,686	-5.9%	14,603	-4.8%
2004	9.36	2.70	3.00	5.69	6,085	12.2%	11,498	-7.5%	14,106	-8.0%
2005	9.49	2.80	3.30	6.09	6,422	18.5%	11,478	-7.6%	13,818	-9.9%
2006	9.64	2.63	3.39	6.02	6,245	15.2%	11,172	-10.1%	13,275	-13.4%
2007	9.72	2.53	3.77	6.30	6,477	19.5%	11,193	-9.9%	13,224	-13.8%
2008	9.78	2.42	3.96	6.39	6,526	20.4%	11,023	-11.3%	13,347	-13.0%
2009	9.89	2.78	4.30	7.08	7,155	32.0%	11,073	-10.9%	13,127	-14.4%
2010	9.85	2.76	4.42	7.17	7,286	34.4%	10,857	-12.6%	13,111	-14.5%
2011	9.98	2.85	4.83	7.69	7,705	42.1%	10,863	-12.6%	13,023	-15.1%
2012	10.10	2.92	4.87	7.79	7,712	42.2%	10,735	-13.6%	12,916	-15.8%
2013	10.12	2.91	5.23	8.14	8,048	48.4%	10,811	-13.0%	12,696	-17.2%
2014	10.18	2.90	5.37	8.27	8,125	49.9%	10,788	-13.2%	12,652	-17.5%
2015	10.34	3.00	5.92	8.92	8,625	59.1%	10,779	-13.2%	12,760	-16.8%
2016	10.38	2.99	5.61	8.60	8,285	52.8%	10,609	-14.6%	12,502	-18.5%
伸び額	1.59	0.06	3.77	3.83	2863.81		-1,646		-2,815	
伸び率	18.0%	2.1%	204.6%	80.4%	52.8%		-13.2%		-18.4%	

レセプト1件当たりの金額は、診療所、歯科ともに年々減少している。一方、天井知らずの伸びを示していたがレセプト1件当たりの薬剤料は、2016年度に対前年度比▲5.3%の減少となり、対2000年度比は+52.8%の伸びとなった。

## 薬剤費と医薬品生産・輸入金額の推移



\* 2016年度は月次の集計による暫定値

薬剤費（出来高）

単位：兆円

年度	入院	外来	調剤薬局	合計
2000	1.33	2.93	1.84	6.10
2001	1.30	2.91	2.20	6.49
2002	1.32	2.65	2.42	6.57
2003	1.34	2.83	2.74	7.19
2004	1.21	2.70	3.00	7.26
2005	1.21	2.80	3.30	7.76
2006	1.08	2.63	3.39	7.63
2007	1.10	2.53	3.77	8.02
2008	0.98	2.42	3.96	8.07
2009	0.82	2.78	4.30	8.69
2010	0.67	2.76	4.42	8.74
2011	0.70	2.85	4.83	9.31
2012	0.65	2.92	4.87	9.38
2013	0.66	2.91	5.23	9.78
2014	0.61	2.90	5.37	9.89
2015	0.61	3.07	5.92	9.60
2016	0.54	2.99	5.61	9.14
伸び額	-0.79	0.06	3.77	3.05
伸び率	-59.3%	2.1%	204.6%	50.0%

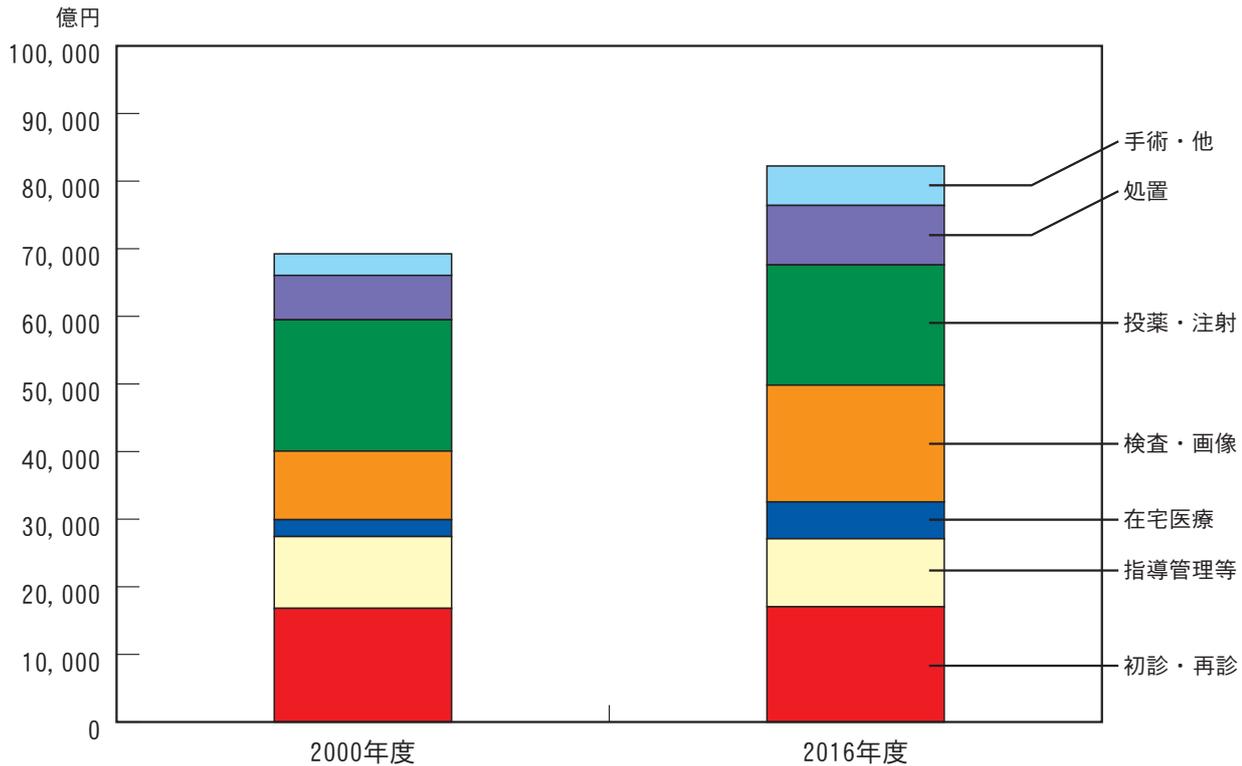
単位：兆円

年度	国内生産	輸入	合計
2000	-	-	-
2001	5.43	1.02	6.45
2002	5.39	1.11	6.50
2003	5.46	1.24	6.70
2004	5.44	1.30	6.74
2005	5.74	1.42	7.16
2006	5.80	1.56	7.37
2007	5.83	1.71	7.54
2008	5.99	1.86	7.85
2009	6.17	2.13	8.30
2010	6.15	2.32	8.47
2011	6.34	2.53	8.88
2012	6.26	2.82	9.08
2013	6.19	3.08	9.27
2014	5.87	3.19	9.06
2015	5.97	3.81	9.78
2016	6.65	3.94	10.59
伸び額	0.55	2.78	3.33
伸び率	10.1%	272.3%	51.7%

薬事工業生産動態統計調査より

入院の薬剤費は、包括医療（DPC）の拡大に伴い出来高が見かけ上減少している。  
 外来、調剤薬局を含めると、出来高部分の薬剤費だけで10兆円に迫っている。薬事工業動態調査によれば、国内生産が横ばいなのに対して輸入の薬剤費の増加が目立つ。

## 診療所外来医療費の比較(2000～2016年度)



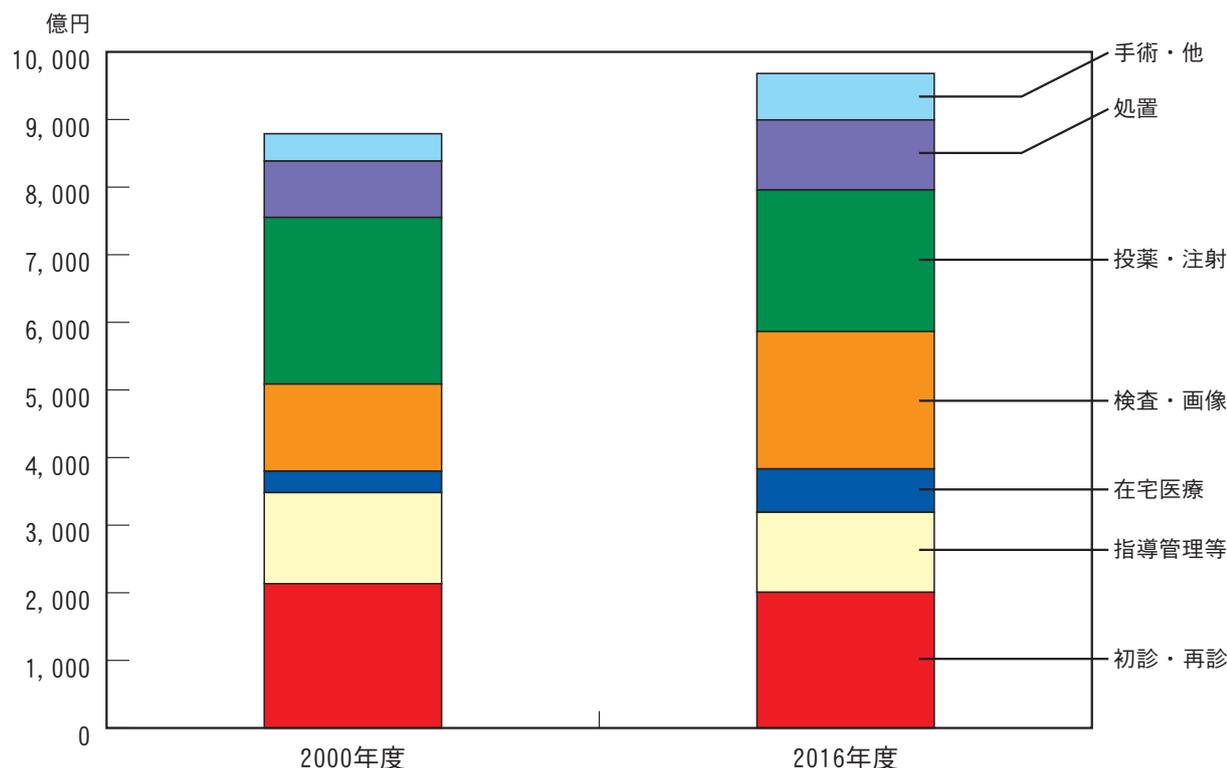
単位：億円

	2000年度		2016年度		差額	
<b>外来医療費</b>	<b>69,245億円</b>		<b>82,240億円</b>		<b>+12,995億円</b>	
初診・再診	16,815	24.3%	17,045	20.7%	230	1.4%
指導管理等	10,614	15.3%	10,062	12.2%	-552	-5.2%
在宅医療	2,500	3.6%	5,456	6.6%	2,956	118.2%
検査	8,341	12.0%	14,040	17.1%	5,699	68.3%
画像診断	1,801	2.6%	3,221	3.9%	1,420	78.8%
投薬	16,624	24.0%	14,541	17.7%	-2,083	-12.5%
注射	2,789	4.0%	3,237	3.9%	448	16.1%
リハビリテーション	702	1.0%	1,116	1.4%	414	59.0%
精神科専門療法	592	0.9%	1,402	1.7%	809	136.6%
処置	6,568	9.5%	8,802	10.7%	2,234	34.0%
手術	1,535	2.2%	2,449	3.0%	914	59.6%
麻酔	362	0.5%	373	0.5%	11	3.1%
放射線治療	0	0.0%	32	0.0%	32	
病理診断			438	0.5%	438	

診療所外来の医療費を診療行為別に2000年度と2016年度で比較する。診療所外来の医療費は1兆3,000億円増加している。全体では増加しているものの、初再診料はほとんど変化がなく、医学管理料至っては500億円減少している。

投薬・注射は院外処方への移行が進んだために減少している。伸びが大きいのは検査・画像診断の7,100億円で、在宅の3,000億円、処置（透析を含む）の2,200億円が続いている。

# 1 施設当たり診療所外来医療費の比較(2000～2016年度)

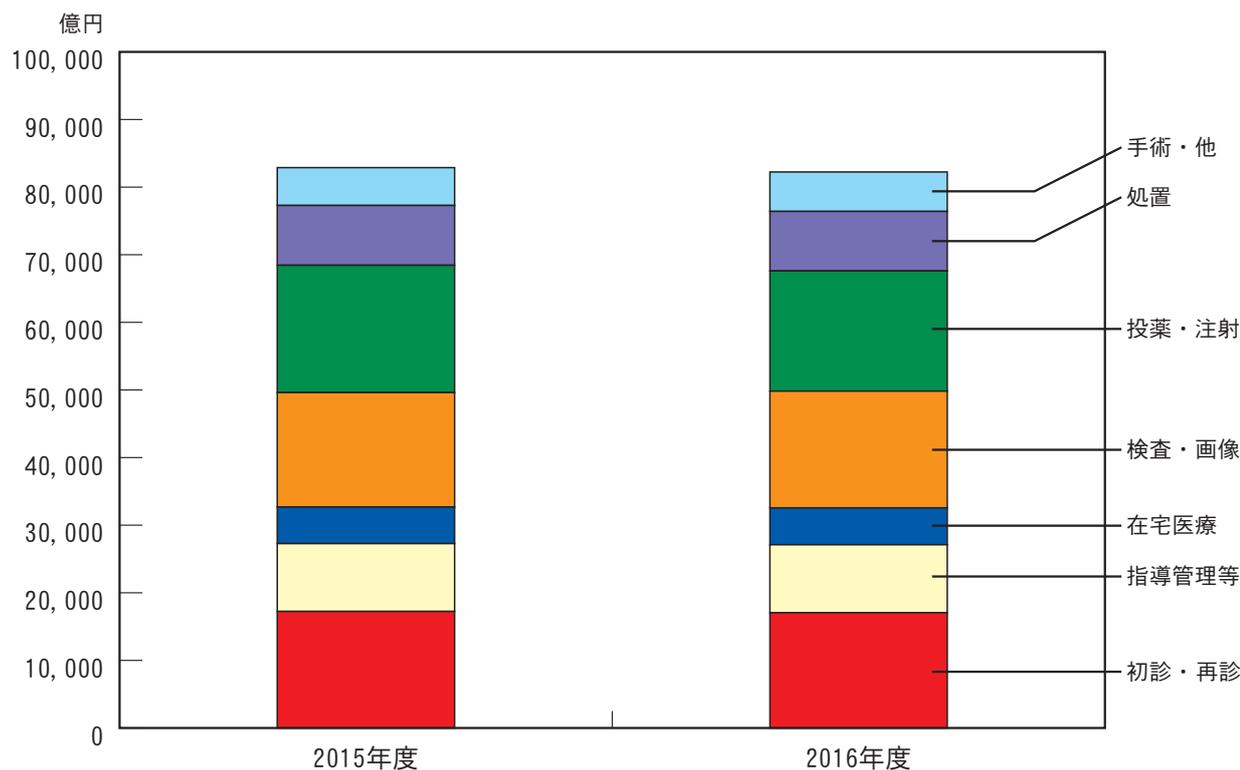


	2000年度		2016年度		差額	
外来医療費	69,245億円		82,240億円		12,995	18.8%
施設数	78,778施設		84,948施設		6,170	7.8%
医療費／施設	8,790万円		9,681万円		891	10.1%
初診・再診	2,135	24.3%	2,007	20.7%	-128	-6.0%
指導管理等	1,347	15.3%	1,184	12.2%	-163	-12.1%
在宅医療	317	3.6%	642	6.6%	325	102.4%
検査	1,059	12.0%	1,653	17.1%	594	56.1%
画像診断	229	2.6%	379	3.9%	150	65.8%
投薬	2,110	24.0%	1,712	17.7%	-399	-18.9%
注射	354	4.0%	381	3.9%	27	7.6%
リハビリテーション	89	1.0%	131	1.4%	42	47.4%
精神科専門療法	75	0.9%	165	1.7%	90	119.4%
処置	834	9.5%	1,036	10.7%	202	24.3%
手術	195	2.2%	288	3.0%	93	48.0%
麻酔	46	0.5%	44	0.5%	-2	-4.4%
放射線治療	0	0.0%	4	0.0%	4	
病理診断			52	0.5%	52	

公共料金対2000年比 はがき+24% 電気+8% ガス+8% 水道+5% JR+7%

2000年度から16年間で医科診療所は6,170施設増加した。1施設当たり外来医療費でみると、年間8,790万円から9,681万円と10%増加している。しかし、増加しているのは、在宅医療、検査、画像診断、処置で、初再診料は-6.0%、医学管理料は-12.1%も減少している。これはレセプト1件当たり受診日数の減少によるものと考えられる。

## 診療所外来医療費の対前年度比較(2015～2016年度)

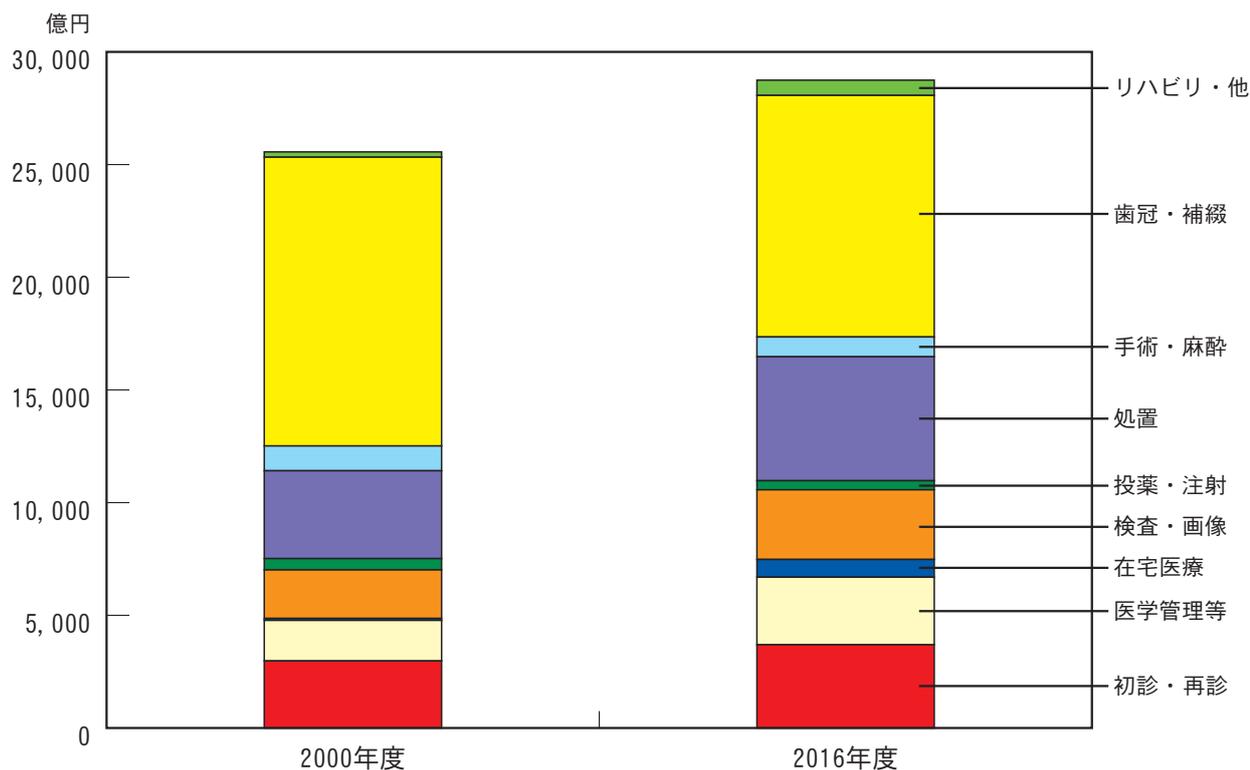


単位：億円

	2015年度		2016年度		差額	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
<b>外来医療費</b>	<b>82,885億円</b>		<b>82,240億円</b>		<b>-644</b>	<b>-0.8%</b>
初診・再診	17,244	20.8%	17,045	20.7%	-199	-1.2%
指導管理等	10,030	12.1%	10,062	12.2%	32	0.3%
在宅医療	5,416	6.5%	5,456	6.6%	39	0.7%
検査	13,800	16.6%	14,040	17.1%	241	1.7%
画像診断	3,120	3.8%	3,221	3.9%	101	3.2%
投薬	15,494	18.7%	14,541	17.7%	-953	-6.2%
注射	3,338	4.0%	3,237	3.9%	-101	-3.0%
リハビリテーション	1,040	1.3%	1,116	1.4%	77	7.4%
精神科専門療法	1,394	1.7%	1,402	1.7%	8	0.6%
処置	8,849	10.7%	8,802	10.7%	-47	-0.5%
手術	2,287	2.8%	2,449	3.0%	162	7.1%
麻酔	384	0.5%	373	0.5%	-10	-2.7%
放射線治療	33	0.0%	32	0.0%	-1	-1.9%
病理診断	428	0.5%	438	0.5%	11	2.5%

2016年度の外来医療費を前年度と比較する。投薬と注射の減少が大きく、2016年度の外来医療費がマイナスとなった要因としては薬剤費の減少の寄与が大きいさらに、初再診料が▲200億円マイナスになった点も見逃せない。これは再診料が2点引下げられたことに相当する。

## 歯科医療費の比較(2000～2016年度)

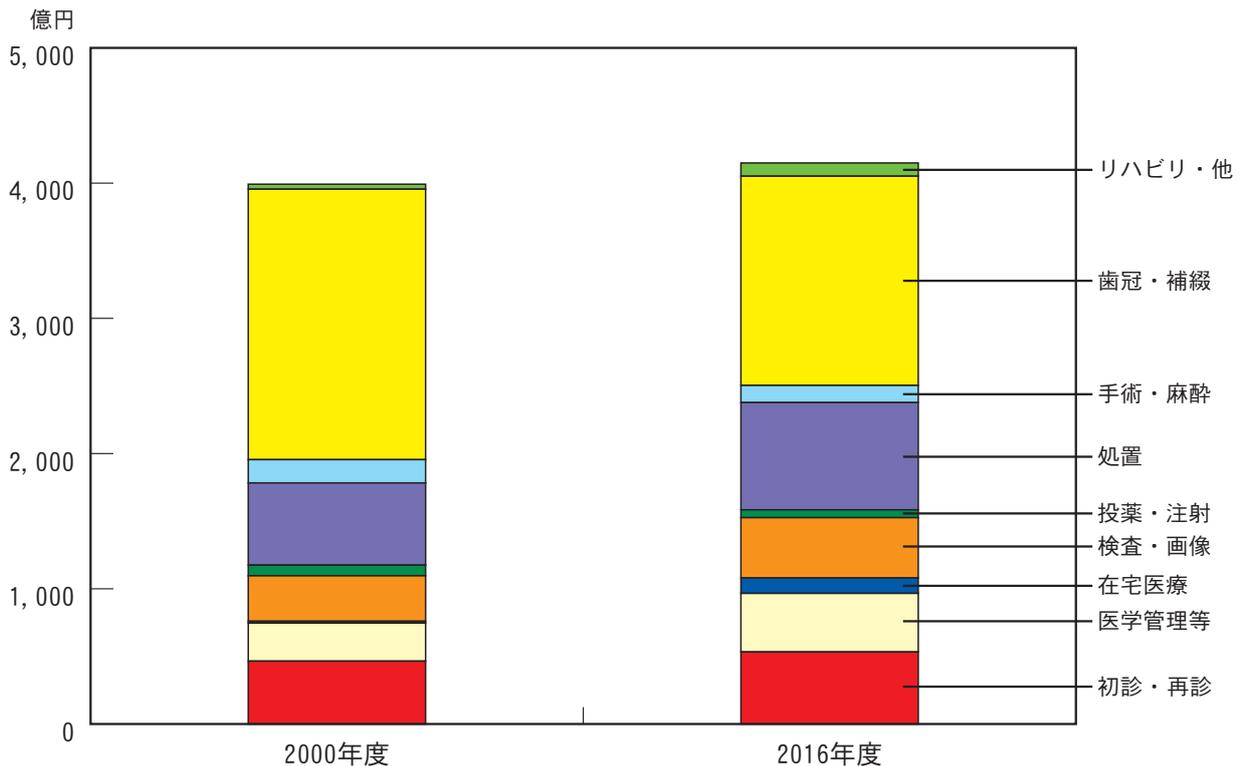


単位：億円

	2000年度		2016年度		差額	
<b>歯科医療費</b>	<b>25,562 億円</b>		<b>28,746 億円</b>		<b>3,185</b>	<b>12.5%</b>
初・再診	2,976	11.6%	3,693	12.8%	717	24.1%
医学管理等	1,799	7.0%	2,998	10.4%	1,199	66.7%
在宅医療	88	0.3%	788	2.7%	700	792.4%
検査	1,293	5.1%	1,907	6.6%	614	47.5%
画像診断	859	3.4%	1,183	4.1%	324	37.8%
投薬	475	1.9%	378	1.3%	-97	-20.5%
注射	28	0.1%	26	0.1%	-2	-6.2%
リハビリテーション	8	0.0%	399	1.4%	392	-
処置	3,897	15.2%	5,498	19.1%	1,602	41.1%
手術	1,017	4.0%	796	2.8%	-221	-21.8%
麻酔	84	0.3%	84	0.3%	-0	-0.2%
放射線治療	2	0.0%	5	0.0%	3	121.4%
歯冠修復及び欠損補綴	12,811	50.1%	10,718	37.3%	-2,093	-16.3%
歯科矯正	34	0.1%	48	0.2%	14	41.0%
病理診断	0	0.0%	20	0.1%	20	-
入院料等	190	0.7%	203	0.7%	13	6.7%

歯科医療費を診療行為別に2000年度と2016年度で比較する。初再診料は24%増加しているが、初再診料の全体に占める割合は12.8%と医科の約半分である。医学管理料が67%、処置料が41%増加している。一方で歯冠修復及び欠損補綴は▲16%減少している。

## 1施設当たり科医療費の比較(2000～2016年度)

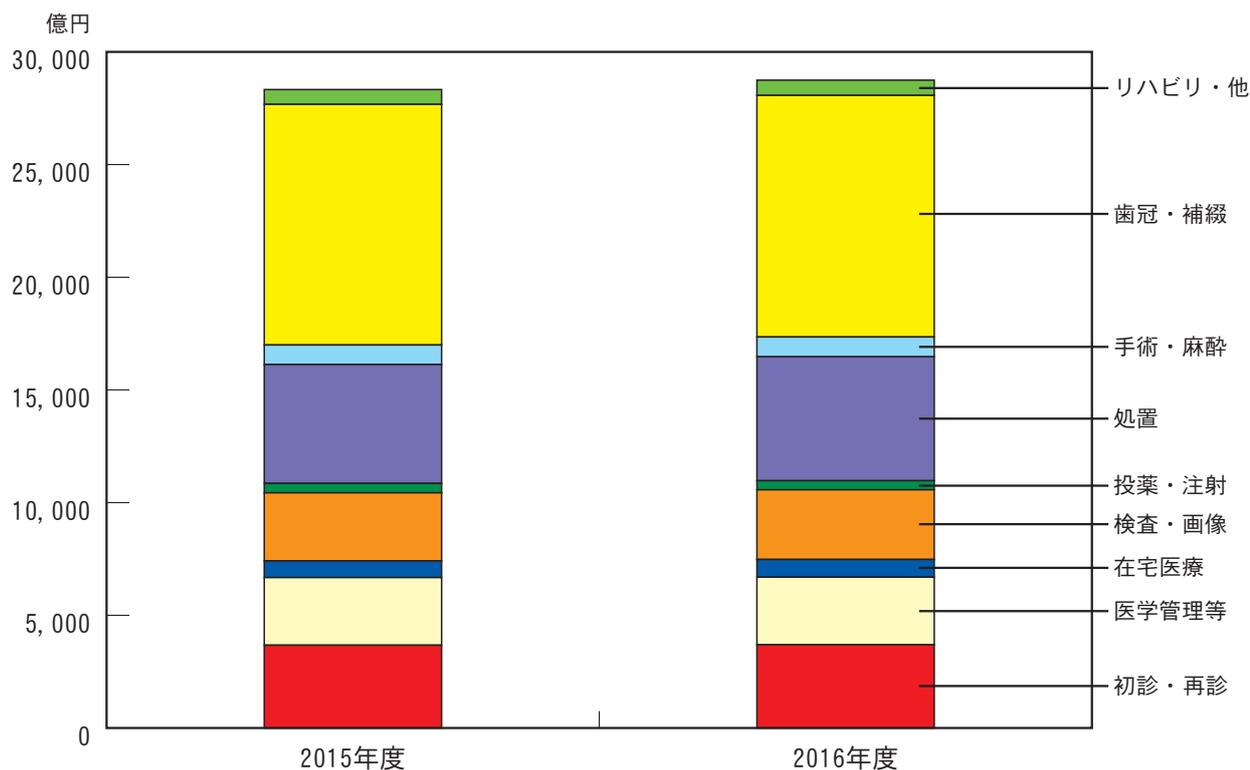


単位：億円

	2000年度		2016年度		差額	
歯科医療費	25,562億円		28,746億円		3,185	12.5%
施設数	64,040		69,296		5,256	8.2%
歯科医療費／施設	3,991万円		4,148		157	3.9%
初・再診	465	11.6%	533	12.8%	68	14.7%
医学管理等	281	7.0%	433	10.4%	152	54.0%
在宅医療	14	0.3%	114	2.7%	100	724.7%
検査	202	5.1%	275	6.6%	73	36.3%
画像診断	134	3.4%	171	4.1%	37	27.3%
投薬	74	1.9%	55	1.3%	-20	-26.5%
注射	4	0.1%	4	0.1%	-1	-13.3%
リハビリテーション	1	0.0%	58	1.4%	56	-
処置	608	15.2%	793	19.1%	185	30.4%
手術	159	4.0%	115	2.8%	-44	-27.7%
麻酔	13	0.3%	12	0.3%	-1	-7.7%
放射線治療	0	0.0%	1	0.0%	0	104.6%
歯冠修復及び欠損補綴	2,000	50.1%	1,547	37.3%	-454	-22.7%
歯科矯正	5	0.1%	7	0.2%	2	30.3%
病理診断	0	0.0%	3	0.1%	3	-
入院料等	30	0.7%	29	0.7%	-0	-1.4%

2000年度から16年間で歯科診療所は5,256施設増加した。1施設当たり歯科医療費で見ると、年間3,991万円から4,148万円と3.9%増加している。初再診料は14.7%増加している。医学管理料が、処置料が増加している一方で、歯冠修復及び欠損補綴が減少しているのは歯科医療費全体の比較と同じ傾向である。

## 歯科医療費の対前年度比較(2015～2016年度)



単位：億円

	2015年度		2016年度		差額	
<b>歯科医療費</b>	<b>28,329 億円</b>		<b>28,746 億円</b>		<b>417</b>	<b>1.5%</b>
初・再診	3,675	13.0%	3,693	12.8%	18	0.5%
医学管理等	3,000	10.6%	2,998	10.4%	-2	-0.1%
在宅医療	741	2.6%	788	2.7%	47	6.4%
検査	1,865	6.6%	1,907	6.6%	42	2.2%
画像診断	1,154	4.1%	1,183	4.1%	29	2.5%
投薬	395	1.4%	378	1.3%	-17	-4.4%
注射	24	0.1%	26	0.1%	2	7.4%
リハビリテーション	394	1.4%	399	1.4%	5	1.3%
処置	5,272	18.6%	5,498	19.1%	227	4.3%
手術	790	2.8%	796	2.8%	6	0.7%
麻酔	80	0.3%	84	0.3%	4	5.5%
放射線治療	4	0.0%	5	0.0%	1	23.0%
歯冠修復及び欠損補綴	10,676	37.7%	10,718	37.3%	42	0.4%
歯科矯正	47	0.2%	48	0.2%	2	3.7%
病理診断	18	0.1%	20	0.1%	2	11.8%
入院料等	194	0.7%	203	0.7%	9	4.6%

2016年度の歯科医療費を前年度と比較すると、ほとんど変化がみられない。これは、2016年度は新設されたか強診の届出施設がまだ少なかったことに由来するのではないかと考えられる。

## 2 医科診療所

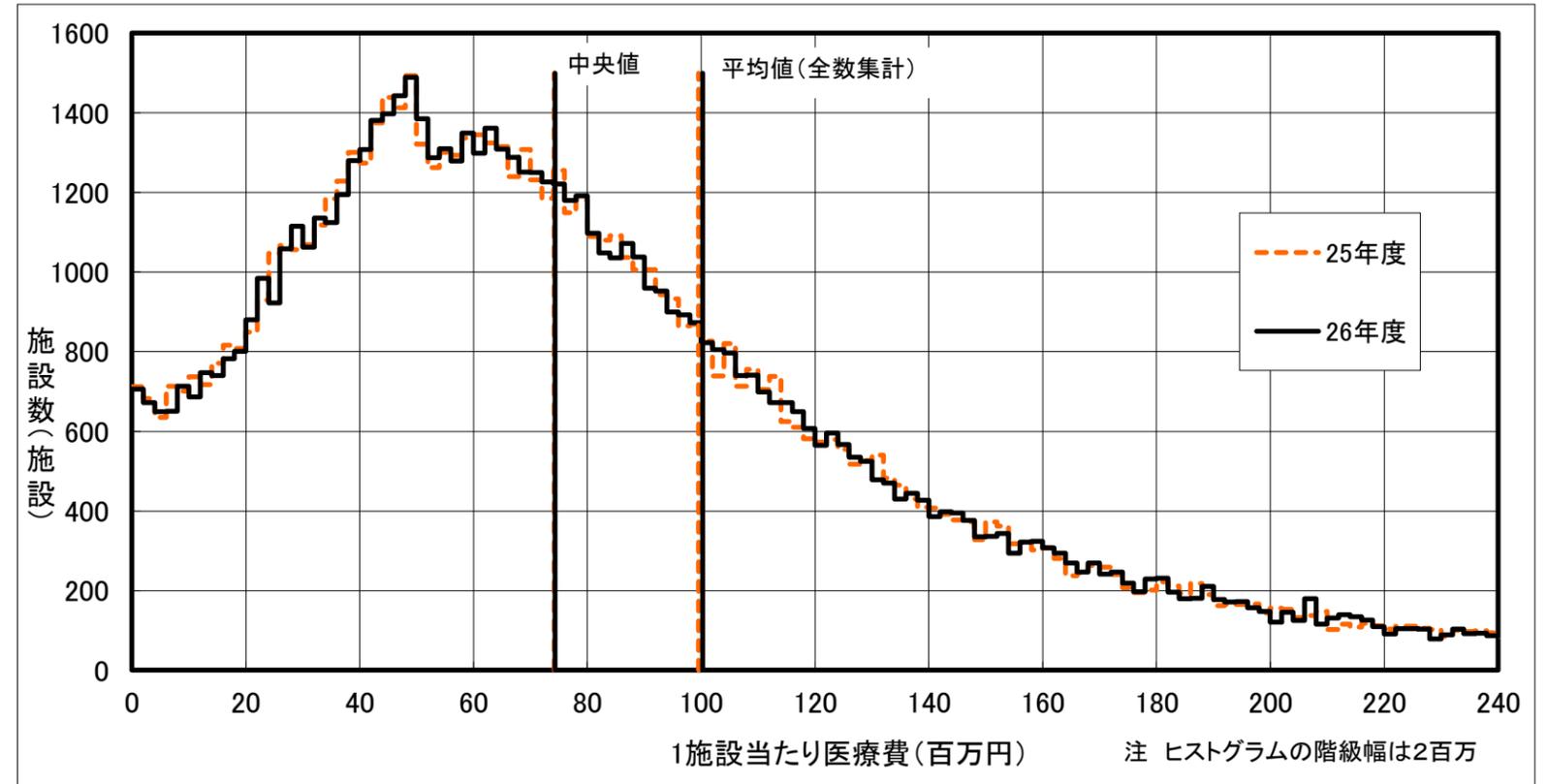
# 施設単位でみる医療費等の分布の状況

(平成26年度版)

(2-1) 1施設当たり医療費の分布統計(医科診療所)

		1施設当たり医療費		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
施設数		81,463	81,413	81,413
平均		100.53 百万円	101.32 百万円	101.85 百万円
標準偏差		124.32 百万円	125.73 百万円	127.05 百万円
変動係数		1.237	1.241	1.247
パーセンタイル値	25%	43.16 百万円	43.36 百万円	43.62 百万円
	50%(中央値)	74.22 百万円	74.17 百万円	74.31 百万円
	75%	119.02 百万円	119.40 百万円	119.63 百万円
全数集計による平均値		99.02 百万円	99.52 百万円	100.24 百万円

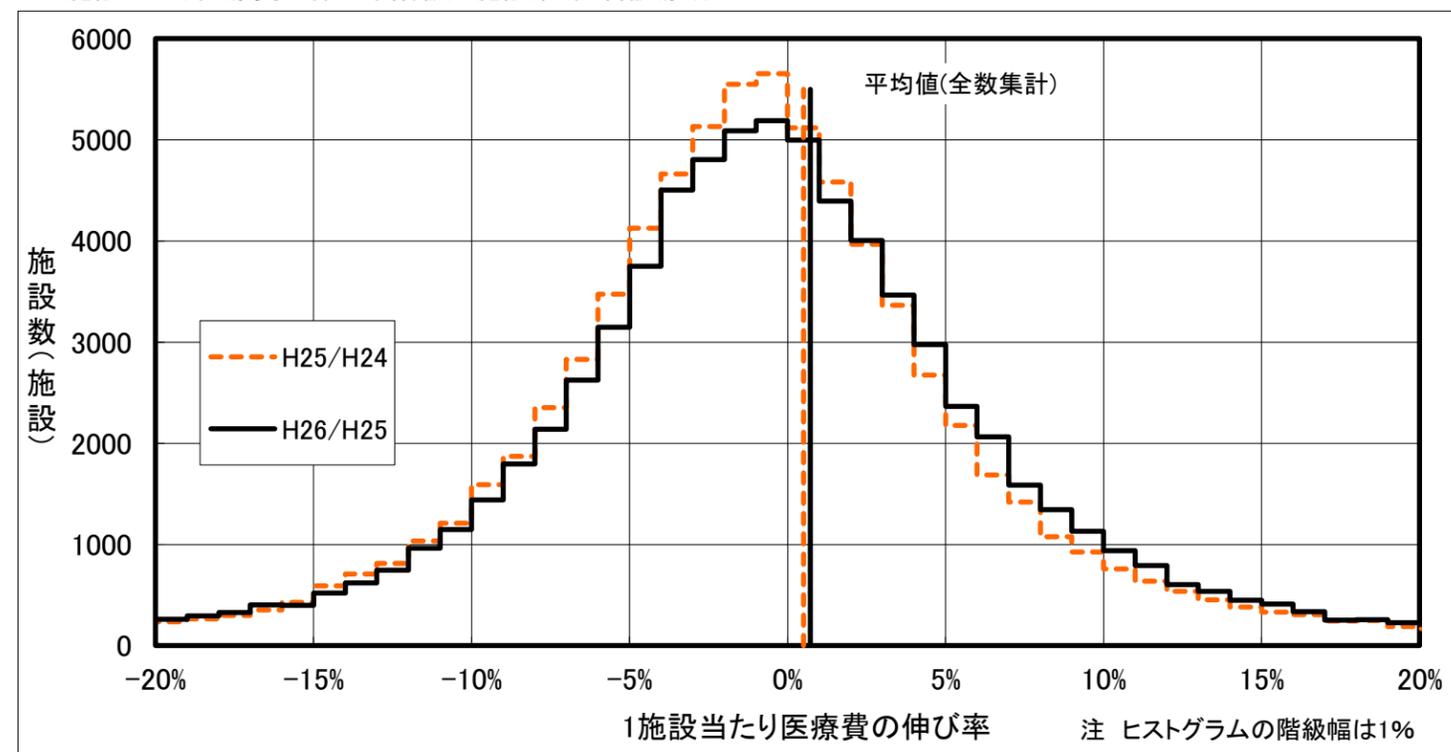
■ 1施設当たり医療費階級別施設数(医科診療所)



(2-2) 1施設当たり医療費の伸び率(対前年度比)の分布統計(医科診療所)

		1施設当たり医療費の伸び率	
		平成25年度	平成26年度
施設数		78,687	78,471
パーセンタイル値	25%	▲ 5.1 %	▲ 4.9 %
	50%(中央値)	▲ 1.0 %	▲ 0.6 %
	75%	3.0 %	3.8 %
全数集計による平均値		0.5 %	0.7 %

■ 1施設当たり医療費の伸び率階級別施設数(医科診療所)



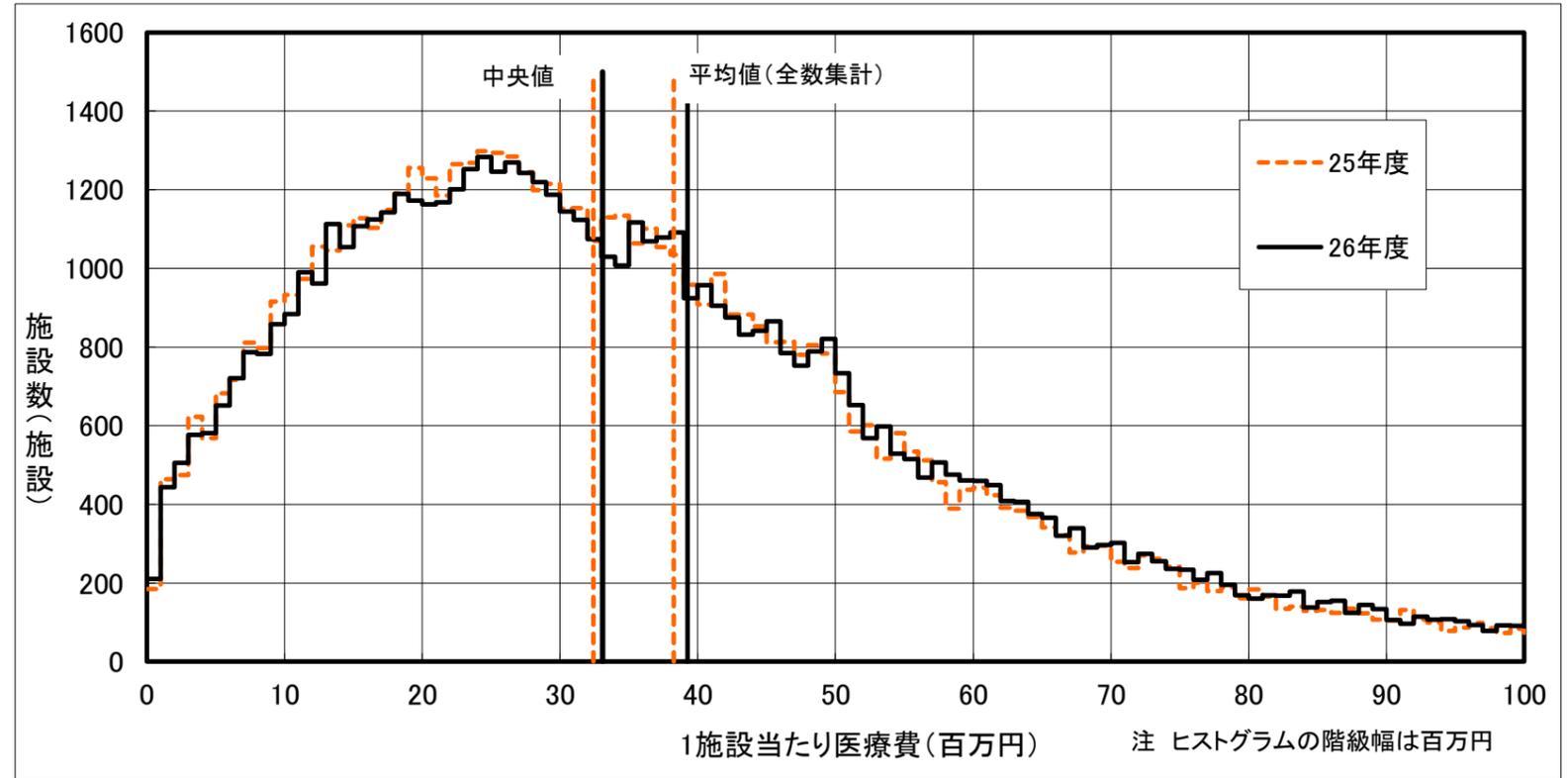
平成28(2016)年5月  
厚生労働省保険局調査課

### 3 歯科診療所

(3-1) 1施設当たり医療費の分布統計(歯科診療所)

		1施設当たり医療費		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
施設数		64,900	64,845	65,053
平均		38.64 百万円	38.83 百万円	39.90 百万円
標準偏差		30.88 百万円	31.51 百万円	32.65 百万円
変動係数		0.799	0.811	0.818
パーセンタイル値	25%	19.40 百万円	19.22 百万円	19.49 百万円
	50%(中央値)	32.41 百万円	32.42 百万円	33.10 百万円
	75%	49.28 百万円	49.51 百万円	50.83 百万円
全数集計による平均値		38.07 百万円	38.25 百万円	39.27 百万円

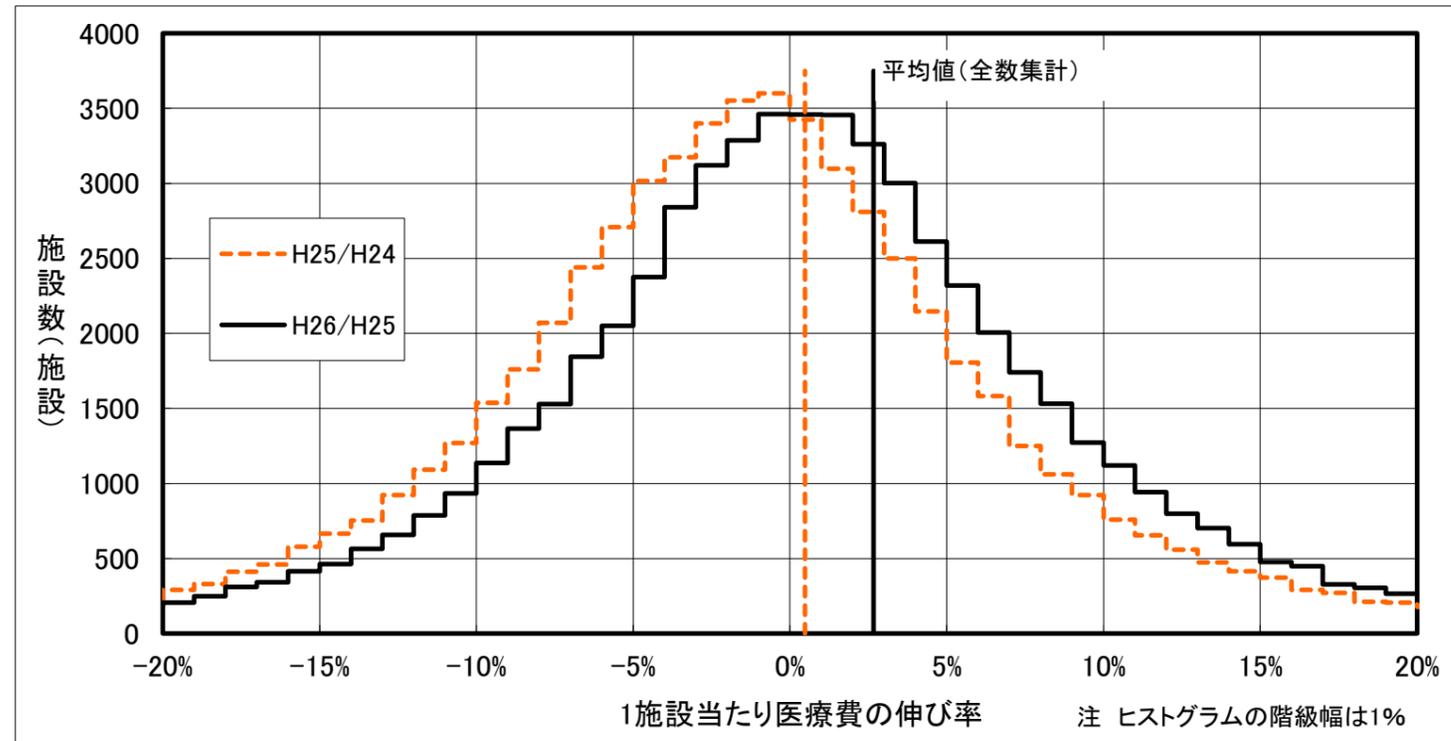
■ 1施設当たり医療費階級別施設数(歯科診療所)



(3-2) 1施設当たり医療費の伸び率(対前年度比)の分布統計(歯科診療所)

		1施設当たり医療費の伸び率	
		平成25年度	平成26年度
施設数		62,785	62,775
パーセンタイル値	25%	▲ 6.3 %	▲ 4.4 %
	50%(中央値)	▲ 1.2 %	0.6 %
	75%	3.7 %	5.8 %
全数集計による平均値		0.5 %	2.7 %

■ 1施設当たり医療費の伸び率階級別施設数(歯科診療所)

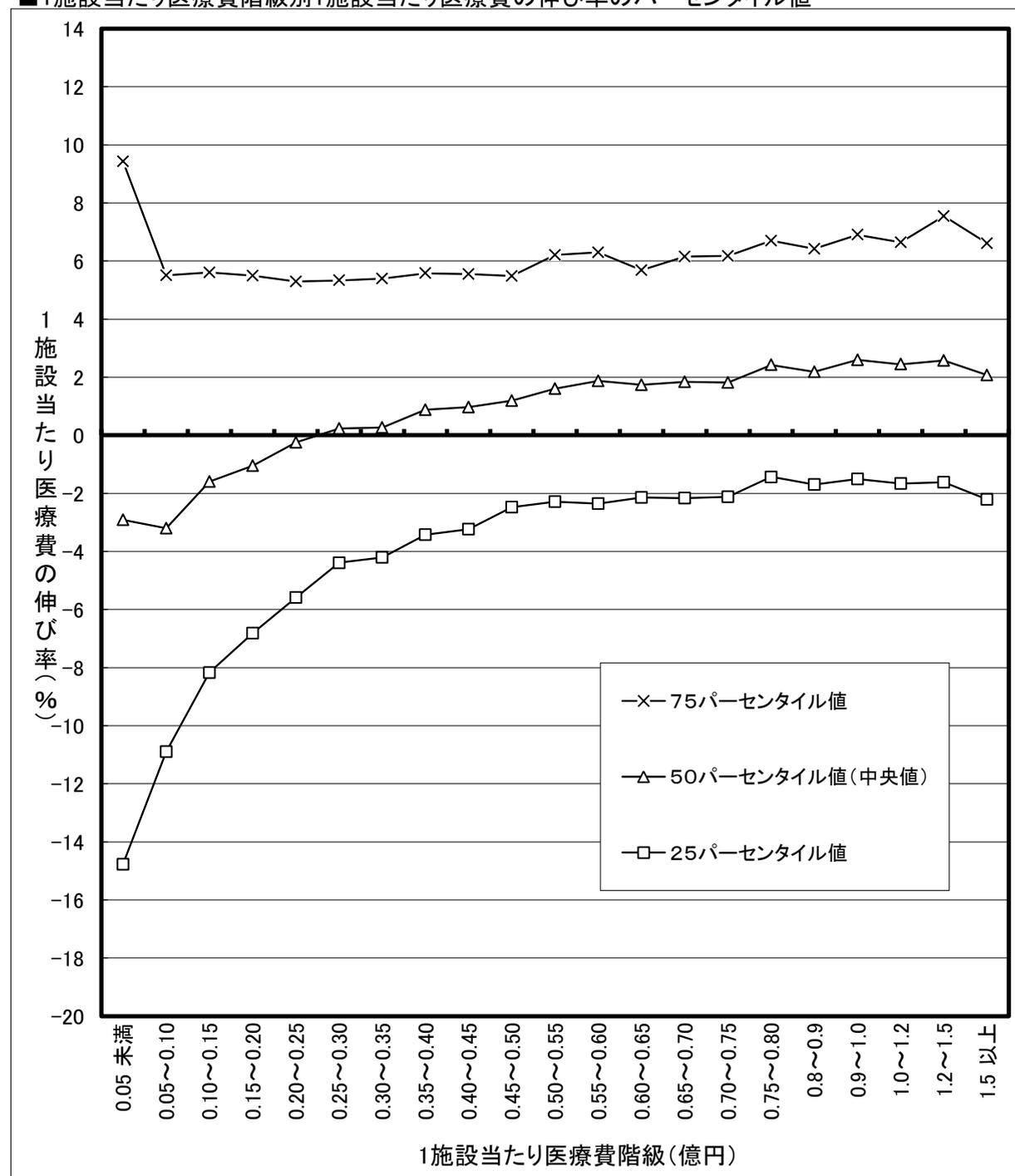


(3-5) 1施設当たり医療費階級別にみた1施設当たり医療費の伸び率(対前年度比)の分布統計(歯科診療所)

平成25年度→平成26年度

1施設当たり医療費階級	施設数	パーセンタイル値		
		25%	50% 中央値	75%
500万円未満	1,951	▲ 14.8	▲ 2.9	9.4
500～1000万円	3,581	▲ 10.9	▲ 3.2	5.5
1000～1500万円	4,829	▲ 8.2	▲ 1.6	5.6
1500～2000万円	5,608	▲ 6.8	▲ 1.0	5.5
2000～2500万円	6,061	▲ 5.6	▲ 0.2	5.3
2500～3000万円	6,093	▲ 4.4	0.2	5.3
3000～3500万円	5,531	▲ 4.2	0.3	5.4
3500～4000万円	5,111	▲ 3.4	0.9	5.6
4000～4500万円	4,462	▲ 3.2	1.0	5.6
4500～5000万円	3,938	▲ 2.5	1.2	5.5
5000～5500万円	2,927	▲ 2.3	1.6	6.2
5500～6000万円	2,297	▲ 2.3	1.9	6.3
6000～6500万円	1,977	▲ 2.1	1.7	5.7
6500～7000万円	1,504	▲ 2.2	1.8	6.2
7000～7500万円	1,251	▲ 2.1	1.8	6.2
7500～8000万円	907	▲ 1.4	2.4	6.7
8000～9000万円	1,361	▲ 1.7	2.2	6.4
9000万～1.0億円	940	▲ 1.5	2.6	6.9
1.0～1.2億円	1,065	▲ 1.7	2.4	6.6
1.2～1.5億円	704	▲ 1.6	2.6	7.6
1.5億円以上	677	▲ 2.2	2.1	6.6

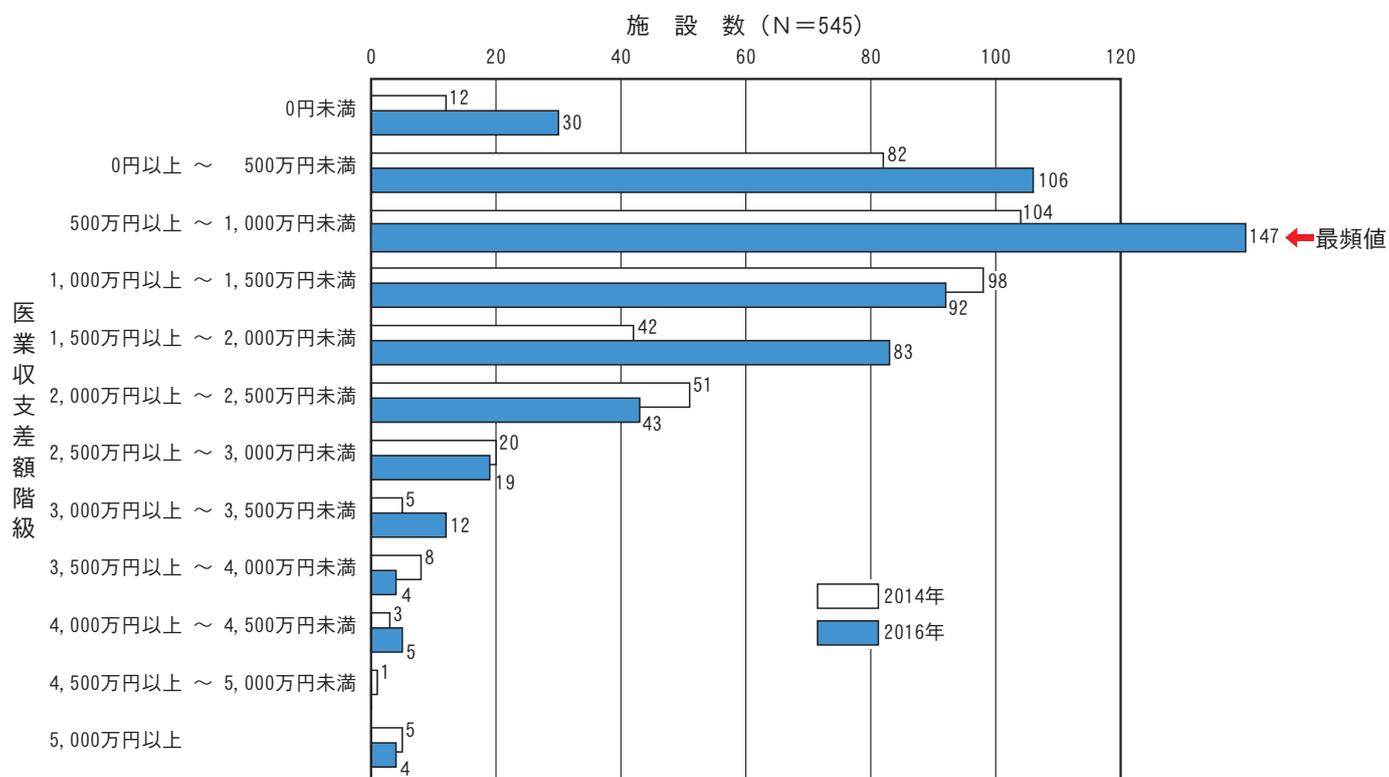
■ 1施設当たり医療費階級別1施設当たり医療費の伸び率のパーセンタイル値



注 平成25年度の1施設当たり歯科医療費階級で歯科診療所を分類し、平成26年度の1施設当たり歯科医療費の伸び率(対前年度比)の分布状況をみたものである。

# 歯科診療所(個人)収支差額階級別施設数(12階級)

歯科診療所 (青色申告者を含む) (集計2)		(施設数)		
収支差額	個人	(再掲)医療法人	(再掲)その他	全体
-250万未満	20	15	0	35
-250万円以上 ~ 0円未満	10	16	0	26
0円以上 ~ 250万円未満	49	25	0	74
250万円以上 ~ 500万円未満	57	12	0	69
500万円以上 ~ 750万円未満	78	8	0	86
750万円以上 ~ 1,000万円未満	69	8	0	77
1,000万円以上 ~ 1,250万円未満	56	5	0	61
1,250万円以上 ~ 1,500万円未満	36	3	0	39
1,500万円以上 ~ 1,750万円未満	46	3	0	49
1,750万円以上 ~ 2,000万円未満	37	3	0	40
2,000万円以上 ~ 2,250万円未満	29	2	0	31
2,250万円以上 ~ 2,500万円未満	14	2	0	16
2,500万円以上 ~ 2,750万円未満	11	0	0	11
2,750万円以上 ~ 3,000万円未満	8	0	0	8
3,000万円以上 ~ 3,250万円未満	10	2	0	12
3,250万円以上 ~ 3,500万円未満	2	0	0	2
3,500万円以上 ~ 3,750万円未満	2	1	0	3
3,750万円以上 ~ 4,000万円未満	2	1	0	3
4,000万円以上 ~ 4,250万円未満	2	0	0	2
4,250万円以上 ~ 4,500万円未満	3	0	0	3
4,500万円以上 ~ 4,750万円未満	0	0	0	0
4,750万円以上 ~ 5,000万円未満	0	0	0	0
5,000万円以上	4	3	0	7
全体	545	109	0	654



注)「平成27年6月実施 第24回医療経済実態調査(医療機関等調査)報告」歯科診療所(集計2)より作成

# 歯科診療所(個人)の収支差額の平均値、中央値、最頻値

## ④ 歯科診療所 (報告書 p28、p325-326)

(個人) 報告書 p326 (単位: 千円、%)

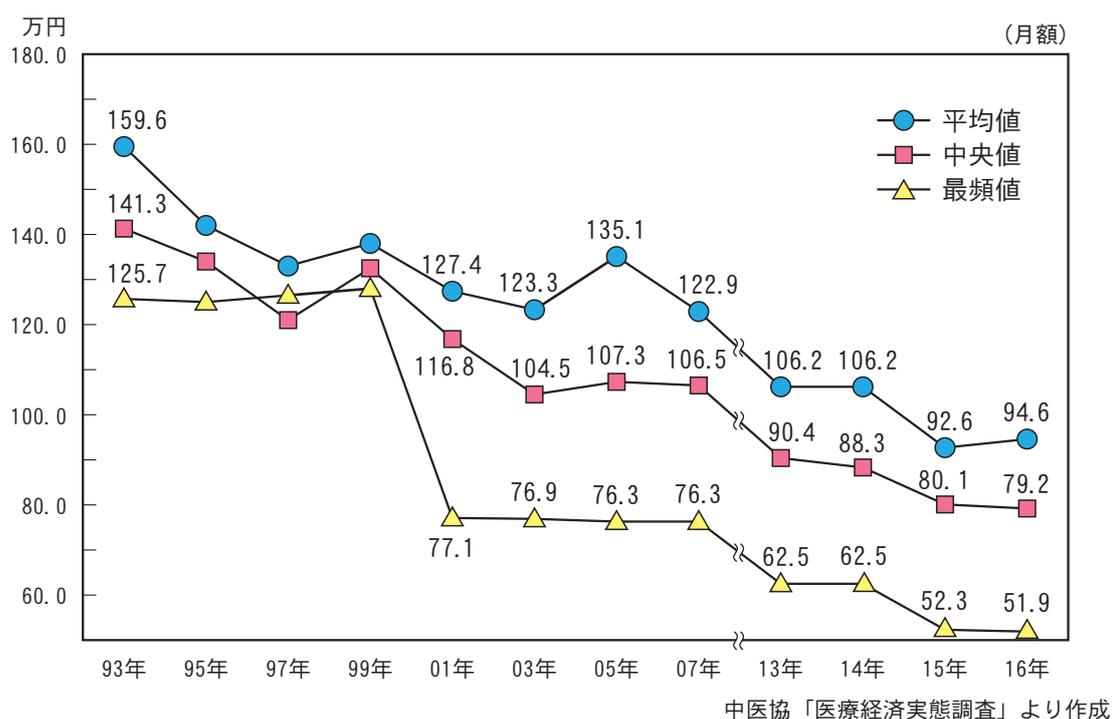
	前々年(度)		前年(度)		金額の伸び率
	金額	構成比率	金額	構成比率	
I 医業収益	38,943	99.7%	39,108	99.7%	0.4%
II 介護収益	115	0.3%	116	0.3%	0.9%
III 医業・介護費用	27,951	71.6%	27,878	71.1%	▲0.3%
IV 損益差額 (I + II - III)	11,107	28.4%	11,346	28.9%	—
施設数	545				

歯科診療所 (青色申告者を含む) (集計2) (1施設当たり)

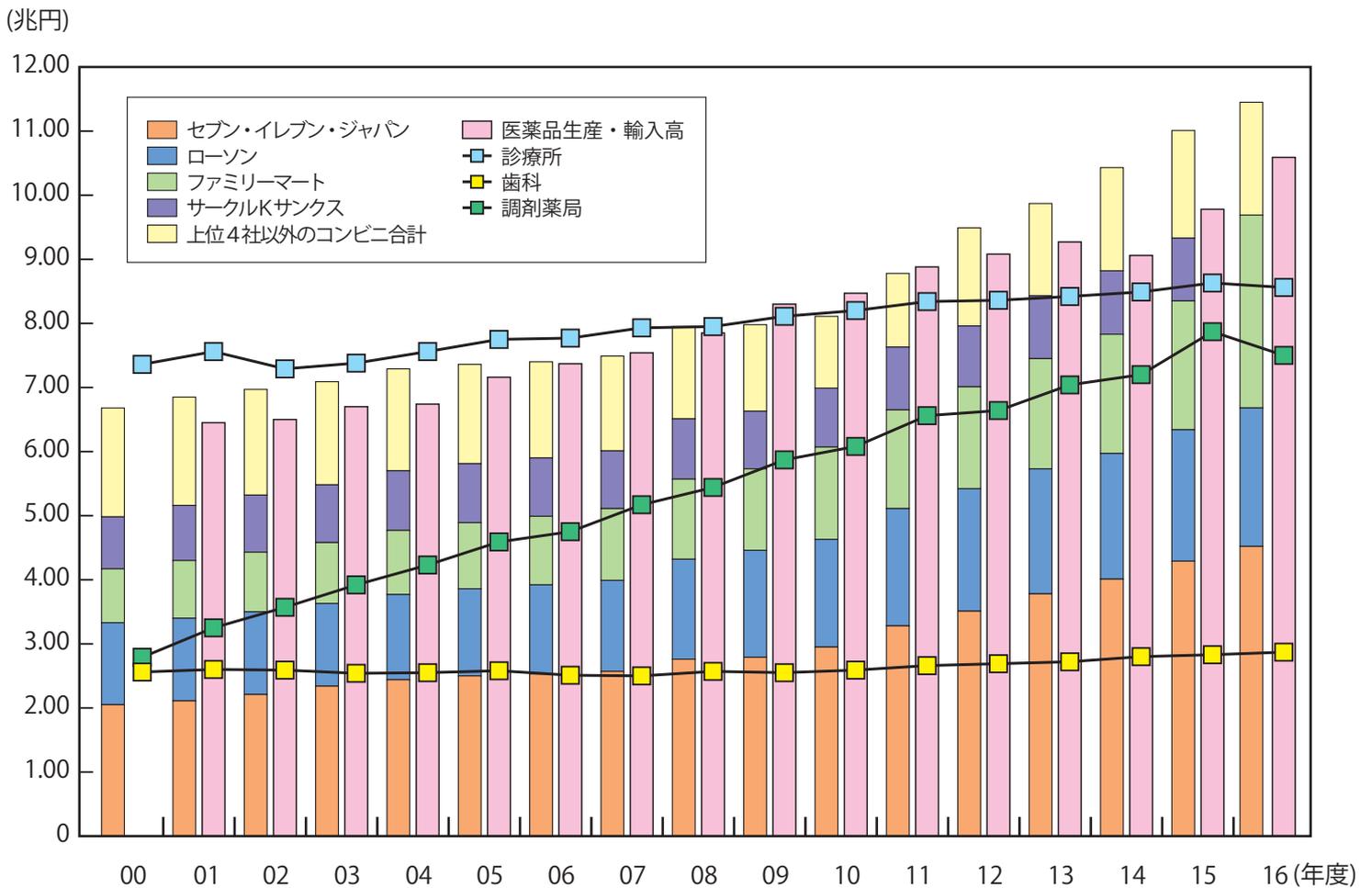
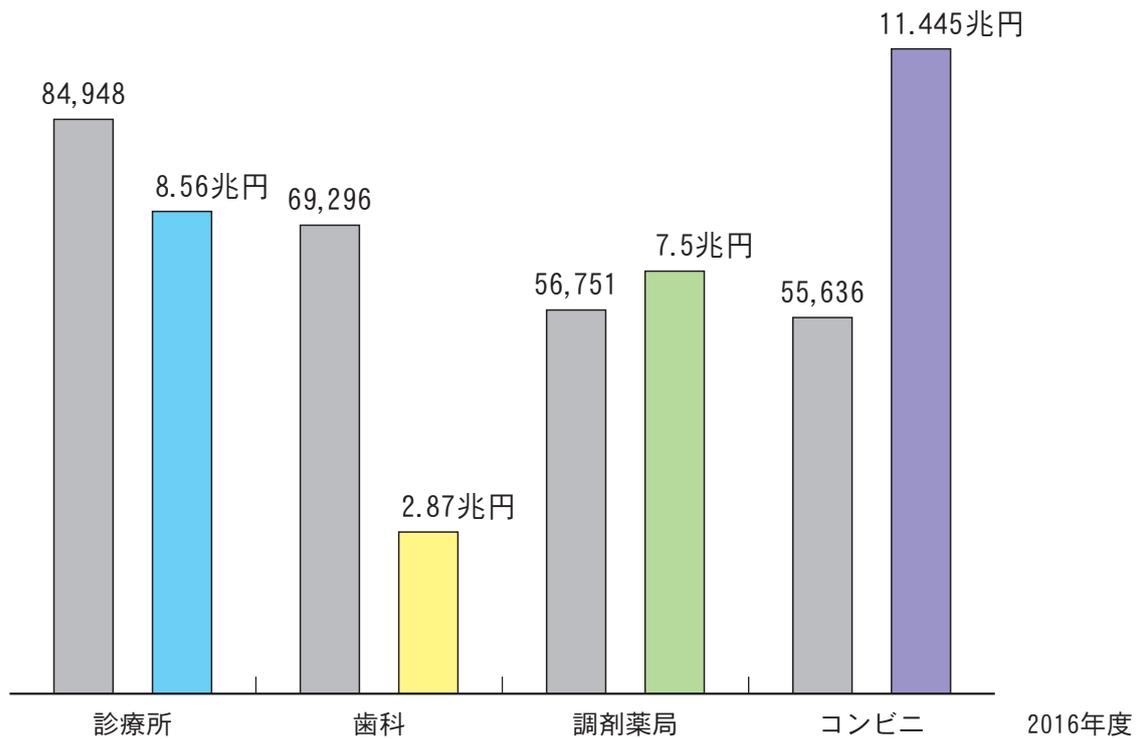
	構成比率	個人		(再掲) 医療法人・その他		全体	
		前々年(度)	前年(度)	前々年(度)	前年(度)	前々年(度)	前年(度)
損益差額	構成比率	28.4%	28.9%	4.8%	5.9%	21.0%	21.6%
	千円	11,107.3	11,346.1	4,260.2	5,465.0	9,966.1	10,366.0
	中央値	9,608.1	9,503.6	1,588.5	2,165.9	8,555.5	8,602.7
	標準誤差	439.9	467.8	1,423.2	1,402.9	447.4	462.1
	95%信頼区間	±862.1	±916.8	±2,789.5	±2,749.7	±876.8	±905.7
損益率	千円	28.8%	29.3%	2.1%	3.4%	24.3%	25.0%
	中央値	29.1%	29.1%	2.8%	3.3%	25.5%	26.1%
	標準誤差	1.0%	1.1%	1.8%	2.0%	1.0%	1.0%
	95%信頼区間	±2.0%	±2.1%	±3.6%	±4.0%	±1.9%	±2.0%
	施設数	545		109		654	

(注) 1. 損益差額の構成比率は、各開設者別の医業収益と介護収益を合算した金額に対する損益差額の割合である。  
2. 損益率は、各歯科診療所ごとの医業収益と介護収益を合算した金額に対する損益差額の割合である。

「第21回医療経済実態調査」より



# コンビニと診療所・歯科・調剤薬局の売上比較



出展：概算医療費データベース，社会医療診療行為別調査，ローソンアニュアルレポート2001～2017